

三重大学工学部建築学科3年生による 親しまれる四日市旧港への再編計画 作品集



ごあいさつ

本作品集は、三重大学工学部建築学科3年生による「親しまれる四日市旧港への再編計画」を取りまとめたものです。

三重大学工学部建築学科では、3年生後期の建築設計製図4の課題として、1992年から「地区計画」を出題しています。都市計画法に基づく地区計画等ではなく、対象地区を取り巻く町並みのデザインガイドラインや道路や公園等の公共空間を含む地区全体の計画を扱うことから「地区計画」と呼んでいます。課題の対象地区については三重県内の都市を出題教員が選定し、現地説明会や地元報告会等を各自治体の協力を得て行っています。

2012年度は、四日市市の四日市旧港地区を対象地区として選定しました。私の研究室では、2009年度から3箇年かけて四日市港管理組合との共同研究「親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ」を実施しました。2009年度に、親しまれる四日市港づくりのための100のアイデアを取りまとめました。2010～2011年度には、アイデアの中ですぐに実現可能であり、効果的と思われるアイデアの社会実験のためのイベント「秋のみなとフェスタ」を企画開催し、アイデアの評価や見直しなどを行いました。「秋のみなとフェスタ」は2012年度で3回目となり、ソフトのアイデアが多主体の方々の協力により実現されているところです。

このたびの建築設計製図の課題では、これまでの成果を踏まえて、魅力的なハードの整備を出題しました。ハードの整備と言っても、これまでのようなスクラップアンドビルド型ではなく、既存の地域空間資源を活かし、一部の建物を残しながら改修するリノベーション・コンバージョンの課題も組み込んでいます。

今回の26名の学生による8の提案は現実離れした面はあるものの、いずれも地区全体を考慮に入れた魅力ある計画内容になっています。今後、市民参加のワークショップ等により、四日市旧港地区の将来像を検討するための「たたき台」になれば幸いです。最後に現地説明会にご協力頂いた四日市港管理組合の方々に御礼申し上げます。

2012年12月7日

三重大学大学院工学研究科建築学専攻・助教 松浦健治郎

三重大学工学部建築学科3年生による地元発表会 親しまれる四日市旧港への再編計画



三重大学工学部建築学科3年生が四日市旧港の将来像を自由な発想でデザインしました。当日は全8作品の作品集をご用意し、その中から3作品の発表を予定しています。多数のご来場をお待ちしています。

会場：四日市港ポートビル2階大会議室
三重県四日市市霞2-1-1

地元発表会：12月7日(金) 午後7時～午後8時半

主催：三重大学工学部建築学科

その他：入場無料・申し込み不要

問い合わせ先：059-231-9477

matsuura@arch.mie-u.ac.jp (担当：松浦)

*この発表会は三重大学工学部建築学科の授業・建築設計製図Ⅳ「地区計画」の課題作品を発表するものです。従って、実現を前提としたものではなく、仮想の計画内容となります。



三重大学工学部建築学科3年生による 「親しまれる四日市旧港への再編計画」作品集

目次

課題内容.....	4
【Aゾーン】.....	9
< A-1: とんでんへい > 「歩きたくなるみなとサイクリウム」.....	11
< A-2: カンガルー工場 > 「七人のまちづくり侍」.....	15
< A-3: 天竺様 > 「緑と水と親しみ歩き回りたくなる「みなとまち」」.....	19
【Bゾーン】.....	23
< B-1: 檸檬革命 > 「場所の力を共鳴させる」.....	25
< B-2:A 3 > 「広がる緑」.....	31
【Cゾーン】.....	35
< C-1:15 時 27 分 > 「TRAIN PORT PARK」.....	37
< C-2: イヴ > 「時めぐりの幸」.....	41
< C-3: 変身中 > 「Link × Link × Link」 99.....	45

「地区計画一親しまれる四日市旧港地区への再編計画」

担当：松浦（出題）・浦山・浅野 T A：萩原・森河・池原・中田 協力：四日市港管理組合

（1）課題内容

四日市旧港地区には、国の重要文化財に指定された潮吹き防波堤や末広橋梁などの空間資源があるものの、それらの資源が点在していることや、国道23号線によって東西が分断されていること、現在も工業港としての機能を有しているため平日にはトラックが行き交うことなどから、多くの市民にとって、四日市旧港地区は遠い存在であり、週末に遊びに行く対象として考えにくい場所である。

このような中で、四日市旧港地区を含む四日市市の港湾を管理する特別地方公共団体（一部事務組合）である四日市港管理組合は長期構想（2009年8月）の中で、四日市旧港地区の将来像として「都市・住民とともにあるみなと・四日市港」を描き、みなとの文化や景観を活かした「みなとまちづくり」を多様な主体の参画と協働により推進することとした。多様な主体の参画と協働による「みなとまちづくり」を推進するために、2009年11月から2011年3月まで三重大学と四日市港管理組合による共同研究「四日市地区（旧港）における親しまれる港づくりの推進事業」が実施され、親しまれる四日市港づくりのための100のアイデアカードが製作され、アイデアの一部を実践するイベント「みなとフェスタ」が開催された。

本課題では、30年後を目処として、親しまれる四日市旧港地区に再編するための空間計画を構想する。四日市旧港地区全体の将来空間イメージは、「3つの拠点（四日市港歴史資料館・運河沿いの倉庫の商業機能のコンバージョン・埠頭の倉庫を文化商業機能へのコンバージョン）を運河・緑地沿いの歩行者空間で繋ぐ」と想定することとする。主に公共施設や屋外空間等に着眼して、建築の建て方のルール、オープンスペースの取り方・ネットワーク、運河との関係を考慮した建築の提案を行う。なお、本課題では、四日市旧港地区を以下の3つのゾーンに分ける。

- ① Aゾーン：納屋防災緑地、納屋運河、潮吹き防波堤、稲葉翁記念公園があり、最も古い四日市湊でもある。
- ② Bゾーン：千歳橋から臨港橋の間の千歳運河沿いのゾーン。末広橋梁や倉庫が存在する。
- ③ Cゾーン：第1埠頭と第2埠頭を挟んだゾーン。港湾計画では交流拠点として位置づけられている。

これら3つのゾーンのひとつを選択して以下の課題内容に取り組むこととする。

1) 地区の歴史・現状分析

- ・江戸時代からの四日市旧港地区の歴史の変容過程の分析

（建築・運河・街路等の変化）

- ・現在の四日市旧港地区の資源・問題点の整理

2) 地区計画

- ・未利用地に付加する機能を検討する（交流機能、文化機能、商業機能、居住機能、親水機能等）。
- ・始点・終点（JR四日市駅、近鉄四日市駅、自動車用駐車場）との関係性を配慮する。
- ・建築単体だけではなく、むしろ、複数の建築の連続によりできるオープンスペースに注目する（図と地の反転）。
- ・新しく建てる建築のデザインガイドの提案や外部空間のデザイン（道路、公園、駐車場、中庭等）を図的に表現する。
- ・段階的な整備計画を提案する。

3) 部分計画（建築計画、外構設計）

- ・各ゾーンのa～cは建築計画、d～は外構設計である。

< Aゾーン >

A-a：四日市港歴史資料館（敷地面積：4500㎡、延べ床面積：1500㎡程度）

- ・稲葉翁記念公園に面する敷地
- ・四日市博物館に展示されている資料の中で港に関する資料を展示する
- ・稲葉翁記念公園などの屋外空間も合わせて提案する
- ・現状の公園面積を確保すること。
- ・みなとフェスタのイベントの際には拠点施設としても利用可能とする

A-b：運河沿いに面する集合住宅（敷地面積：2898㎡、延べ床面積：3000㎡程度）

- ・A-a、A-bの居住者+αが住む集合住宅の提案（30戸程度）
- ・敷地内に残る歴史的和風建築を保存活用すること（内部をギャラリーとして活用するなど）。
- ・段階的な建替え計画（3段階程度）を提案すること。
- ・コレクティブハウスなどの提案を歓迎する。
- ・運河沿いの立面図（現状・）

A-c：K産業のアンテナショップ・レストラン・ギャラリー（敷地面積：2062㎡、延べ床面積：2000㎡程度）

- ・直販ショップ
- ・レストラン
- ・ごま油、食用胡麻に関する展示ギャラリー
- ・将来的には工場見学なども想定する。
- ・夏期休暇中にミツカンの博物館「酔の里」（愛知県半田市中村町2-6）を見学すること。

A-d：プロムナードと千歳橋の繋がり部分をリデザイン

・階段やスロープなどを計画する

A-e：千歳橋北東の遊歩道整備と千歳と稲葉記念公園を繋ぐ歩道橋の設置

A-f：納屋防災緑地と運河の境界部分に野外ステージを設置

・現状の倉庫を再配置することで、納屋運河と納屋防災緑地の一体性を確保する。

(A-d～A-h：平面図と断面図で主に外構設計を表現)

<Bゾーン>

B-a：運河沿いの倉庫のコンバージョンその1（敷地面積：4523㎡、延べ床面積：3000㎡程度）

・末広橋梁近くの倉庫を商業施設等にコンバージョンする
・倉庫の構造体を活用して改修・増築する
・平面図、断面図、立面図等は伴史也君の卒業設計を参照しても構わない。

・運河沿いの立面図（現状・提案）B-a～B-cまで

B-b：運河沿いの倉庫のコンバージョンその2（敷地面積：4487㎡、延べ床面積：3200㎡程度）

・末広橋梁近くの倉庫を商業施設等にコンバージョンする
・倉庫の構造体を活用して改修・増築する
・平面図、断面図、立面図等は伴君の卒業設計を参照する

B-c：運河沿いの倉庫の間の半屋外空間（敷地面積：4059㎡、延べ床面積：2600㎡程度）

・倉庫の間のオープンスペースに倉庫の屋根並みに合わせて半屋外空間（用途：商業施設等）を挿入する。

・部分的に屋内空間を提案しても構わない。

B-d：千歳運河沿いの遊歩道整備

・千歳橋から臨港橋までの右岸沿いを遊歩道として整備する

・末広橋梁を横断するために踏切の設置を検討しても可。

・運河沿いの遊歩道については断面図で表現する。

B-e：納屋防災緑地に来訪者用駐車場を整備

・緑地機能を確保すること。

・現状のトイレを残すこと（建て替えもOK）。

・50台程度の駐車スペースを確保すること。

(B-b～B-d：平面図と断面図で主に外構設計を表現)

<Cゾーン>

C-a：旧庁舎を交流拠点にコンバージョン（敷地面積：4228㎡、延べ床面積：5000㎡程度）

・市民が集えるような施設（資料館・展望台・ギャラリー・カフェ・レストラン等）を新たに提案する。

・イギリス・リバプールのアルバートドックなどの事例を参照のこと。

・水辺沿いの立面図（現状・提案）C-a～C-cまで

C-b：倉庫を商業施設にコンバージョンその1（敷地面積：5060㎡、延べ床面積：1800㎡程度）

・倉庫を商業施設（カフェ・レストラン等）にコンバージョンする

・イギリス・リバプールのアルバートドックなどの事例を参照のこと。

C-c：倉庫を商業施設にコンバージョンその2（敷地面積：5060㎡、延べ床面積：1800㎡程度）

・倉庫を商業施設（カフェ・レストラン等）にコンバージョンする

・イギリス・リバプールのアルバートドックなどの事例を参照のこと。

C-d：第1埠頭の公園と臨港橋をつなぐ遊歩道の整備

(C-c：平面図と断面図で主に外構設計を表現)

(2) 敷地

所在地：三重県四日市市旧港地区（別紙参照）

敷地面積：約20.2ha（Aゾーン）、約12.4ha（Bゾーン）、約16.9ha（Cゾーン）

用途地域：工業地域、工業専用地域、準工業地域、商業地域、近隣商業地域

(3) 提出作品

1) 地区の歴史・現状分析結果のまとめ（A1：1枚程度）

2) 地区計画（A1：3枚程度）

3) 建築計画・外構設計（A1：3枚程度）

(4) その他

・本課題はグループ（3人）で取り組むことを原則とする。端数が出た場合には、4人グループも可とする。

(5) スケジュール

1) 8月3日（金）出題・課題説明・スライドレクチャー

2) 8月9日（木）現地説明・現地調査

3) 10月12日（金）歴史・現状分析結果、
地区計画案の発表

4) 10月19日（金）地区計画・建築計画の発表その1

5) 10月26日（金）中間講評会（全員発表）

6) 11月2日（金）地区計画・建築計画の発表その2

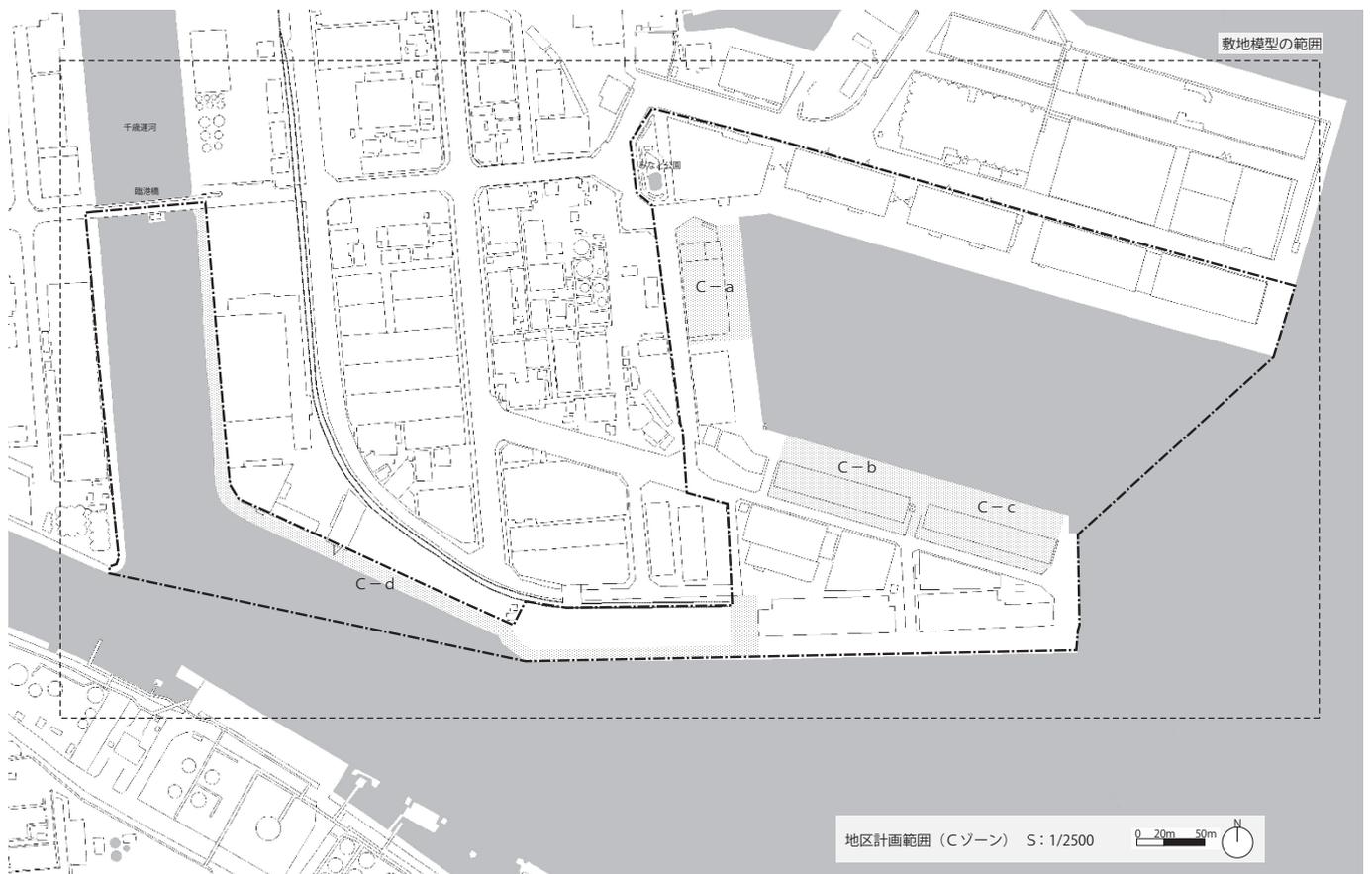
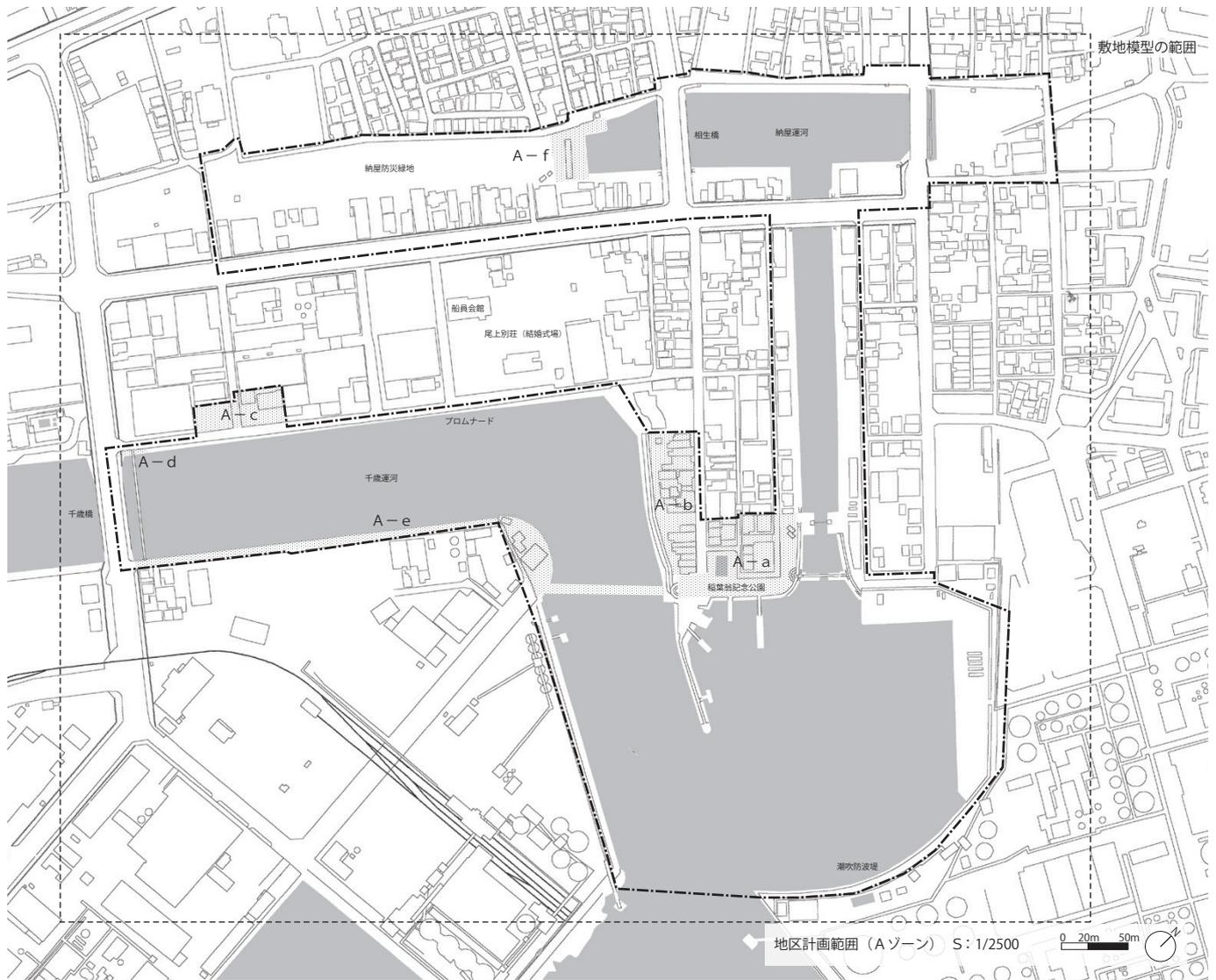
7) 11月9日（金）地区計画・建築計画の発表その3

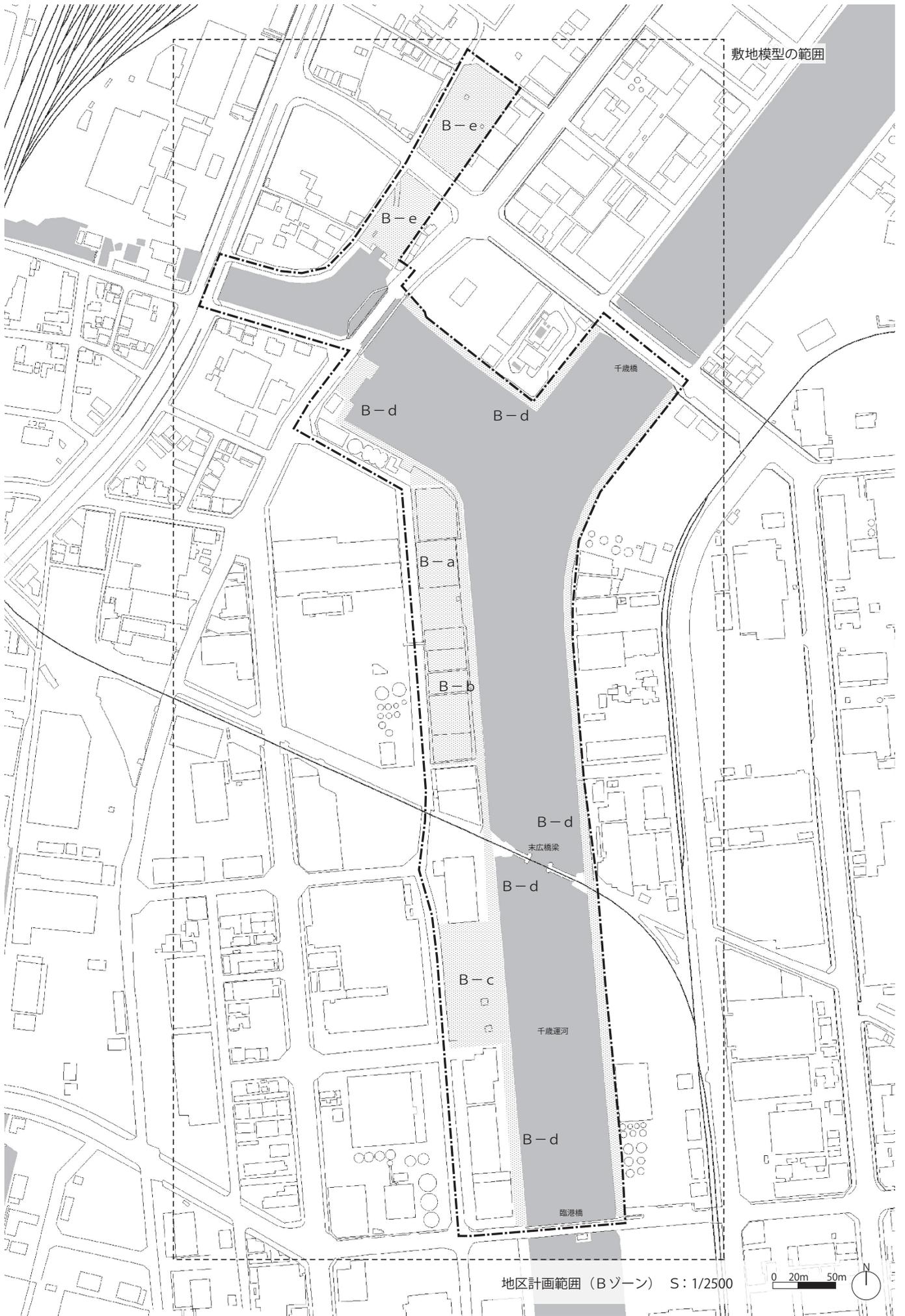
8) 11月16日（金）地区計画・建築計画の発表その3

9) 11月20日（火）提出（図面・模型）

10) 11月21日（水）最終講評会

11) 12月7日（金）地元発表会







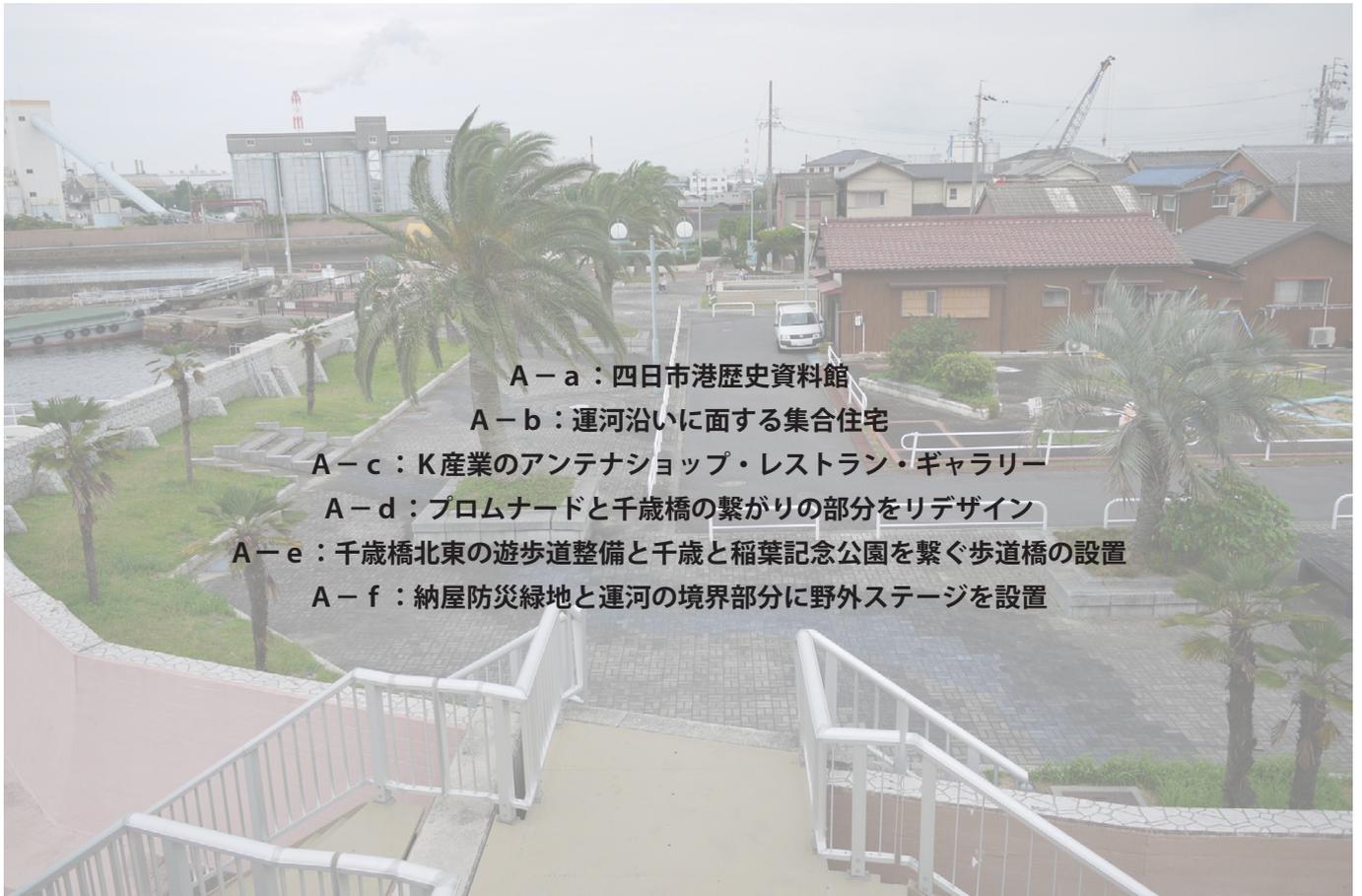
現地説明会（2012.8.9）の風景



最終講評会（2012.11.21）の風景

【Aゾーン】

納屋防災緑地、納屋運河、潮吹き防波堤、稲葉翁記念公園があり、最も古い四日市湊でもある。



< A-1 : とんでんへい > 「歩きたくなるみなとサイクリウム」

木谷 圭佑
武居 梓
宮林 晃久
大河原 章介

< A-2 : カンガルー工場 > 「七人のまちづくり侍」

加藤 千晶
小鮎 優
佐藤 明彦

< A-3 : 天竺様 > 「緑と水と親しみ歩き回りたくなる「みなとまち」

長橋 祐太
二宮 慶士
LEE SUNWHOA

段階計画

～計画を整理する～

まちにポイントを作る



バスの停留所や駐車場、メインとなるフラワースポットや集客力のある地域の整備



ポイント同士をつなぐラインを作る



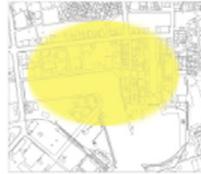
駐車場やバスの停留所から各スポットへつながる運河沿いの運ばの整備



ポイントとラインで囲まれエリアがにぎわい、まち全体に広がる



人の循環が生まれ、フラワースポットが広がり、まち全体に花がふれれば路地も歩きやすいまちに...



地域の歴史

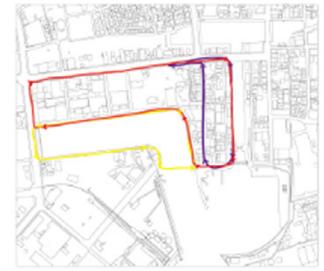


A-b 地区は四日市の発展の歴史を語る上で重要な場所である。今も残る昔ながらの建物は当時の廻廊建築であり、重要な文化遺産と言える



おすすめコース

- A マンぼコース (20min) →
- B 歴史コース (2h) →
- C 夜景コース (1h) →



イベントカレンダー

年間

月間

1月	もちっぴす会 1h 稲葉新記念公園
2月	四日市フルマソン
3月	春のオープンガーデン
4月	納豆運河祭まつり
5月	GW桜祭り
6月	あひま祭り
7月	四日市港大夏祭り
8月	四日市みなと花火大会
9月	秋のスポーツフェスタ
10月	みなとフェスタ
11月	防災難地紅華祭
12月	クリスマスイルミネーション

日	月	火	水	木	金	土
	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

← オープンガーデン週間

フラワースポット

街全体にフラワースポットを広げる取り組みの一環として、個人の庭も開放してもらい、訪れる人だけでなく、開放してもらった人々にも楽しんでもらうことでより広域な活動への展開となる。



Semi Public(尾上別荘)

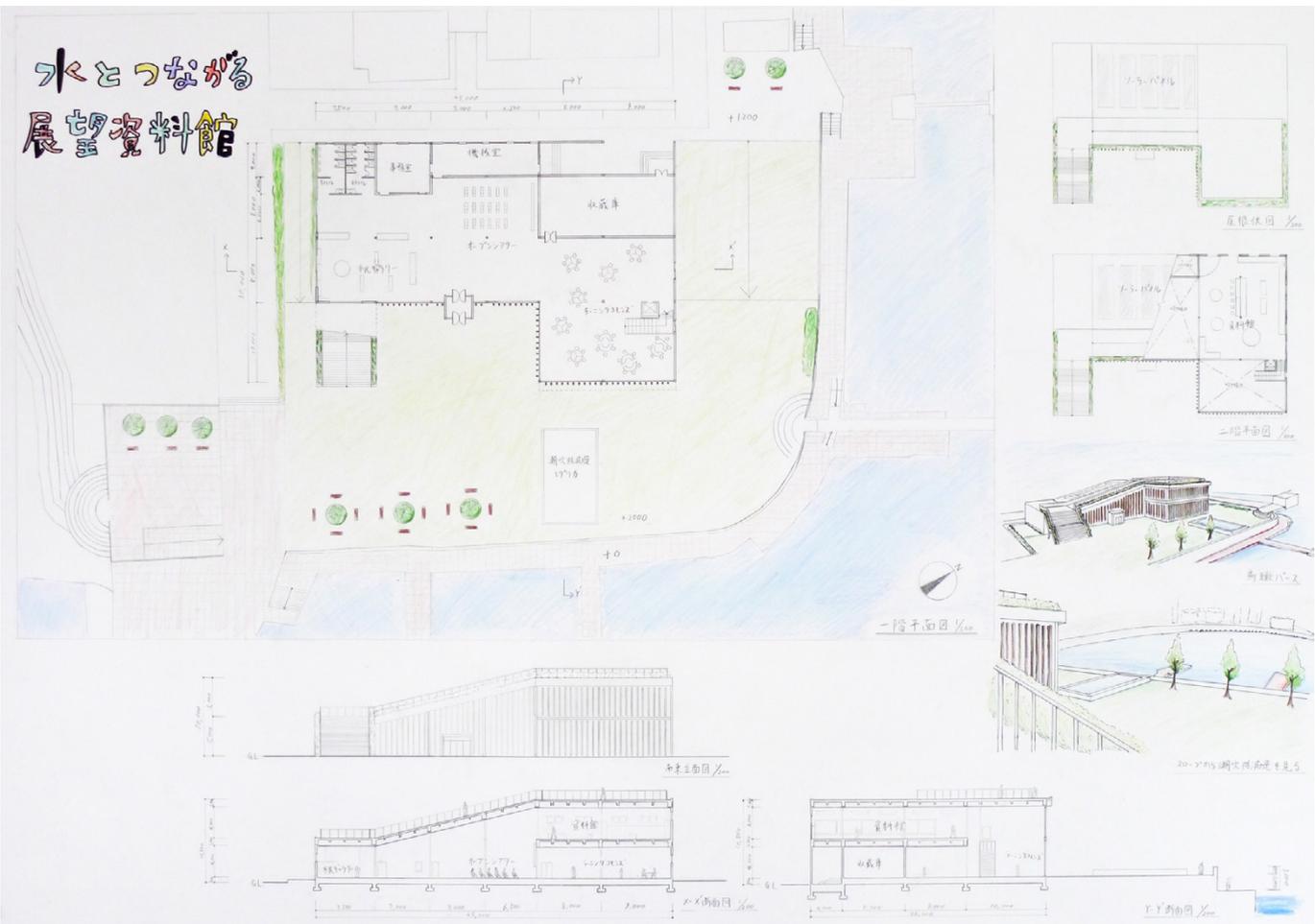


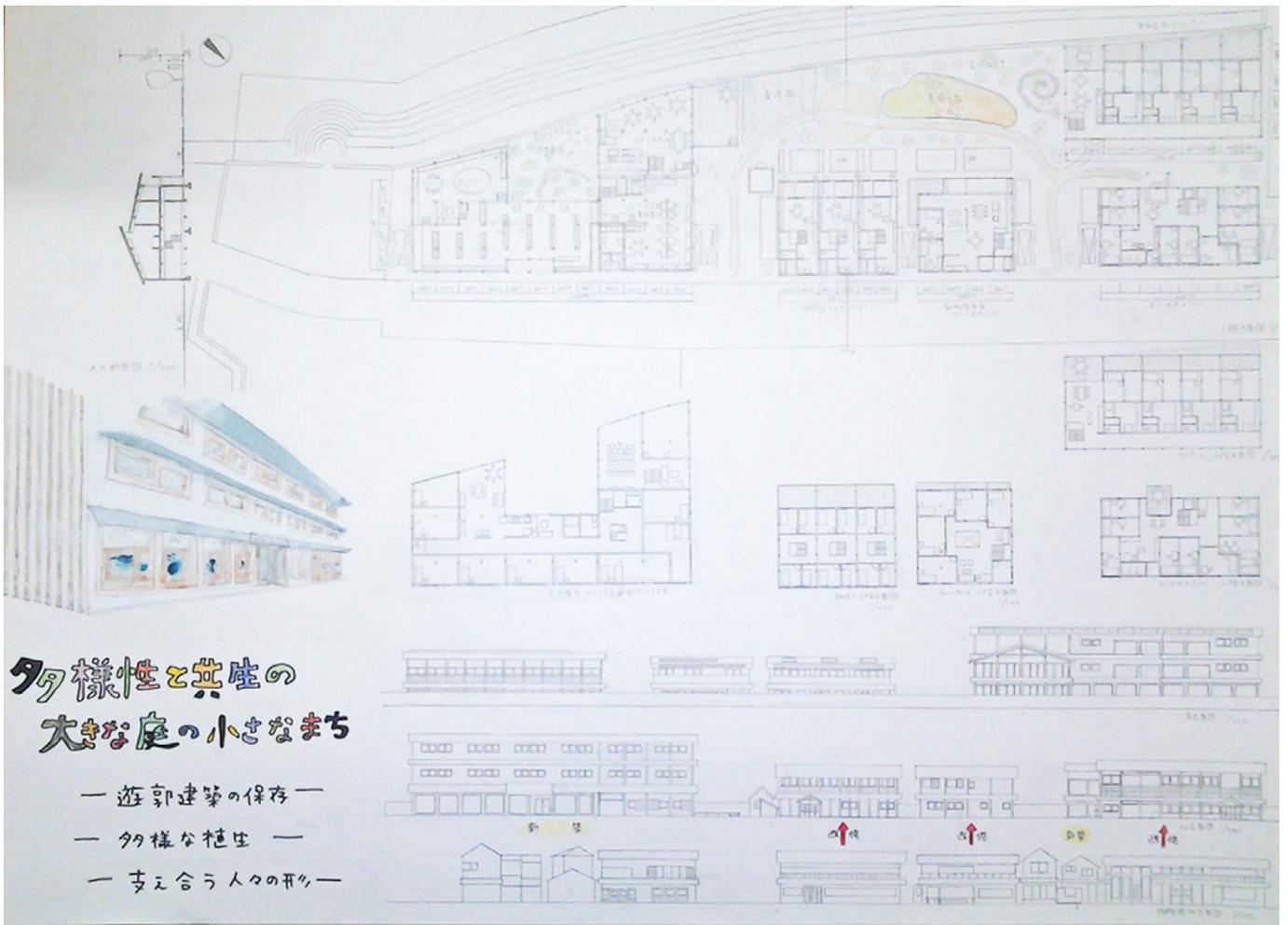
Semi Public(A-b地区)



Private(一般住宅の庭)

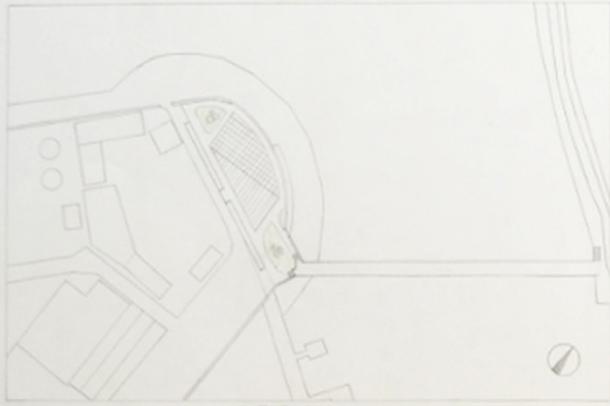
水とつながる 展望資料館





みなとのおきな植物園 cafe

—海も見渡せる気持ちの良い場所にある小さな植物園。
—フラワースポットの中心的存在です。



配置図 (1/100)



1階平面図 (1/200)



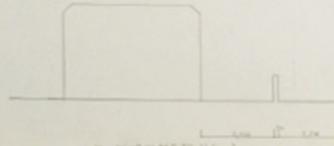
2階平面図 (1/100)



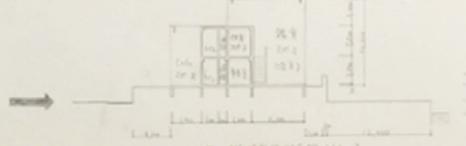
北立面図 (1/100)



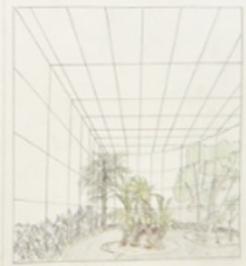
南立面図 (1/100)



X-X' 切取断面図 (1/100)



X-X' 切取断面図 (1/100)



内観パース



「七人のまちづくり侍」

チーム名：カンガルー工場



加藤 千晶



小鮎 優



佐藤 明彦

<設計趣旨>

四日市旧港地区には七人の侍がいた。稲葉三右衛門・伊藤小左衛門・九鬼紋七・伊藤伝七・小菅剣之助・服部長七・ヨハネス・デ・レーケ。彼らは四日市旧港を復活させ、偉人と呼ばれるようになった。しかし、彼らもまた一市民だったのである。今も彼らはこの街に生きている。歴史のある街にしか人は住まない。私たちは旧港地区の設計にあたり、調査をしていくうちにこの地区は稲葉三右衛門だけでなく、さまざまな偉人が関わっていることを知りました。しかし、それと同時にそれを知る術がこの地区には不足していると感じました。この七人の偉人たちを感じられるようなスポットを地区内に配置することにより、誇りをもってその地区の住民たちが暮らせるように、また、その歴史を発信することで、街の活性化にもつながるのではないかと考えました。





- 凡例
- 住居
 - 商業
 - 工業
 - オフィス
 - 歴史的建造物
 - 緑地
 - 駐車場
 - その他

稲葉三右衛門
「四日市港の祖」
安政の大地震によって崩壊した四日市港を私財を投げ打って借金をしてまで修築した偉人。

伊藤小左衛門
「近代工業の祖」
四日市港の発展に貢献した実業家。その事業はみそ造りから養蚕業まで多岐に渡った。

九鬼紋七
「四日市政財界の指導者」
九鬼産業の祖。町会議員を務め、三重鉄道も設立した。

伊藤伝七
「三重紡績の祖にして紡績王」
東洋紡績の祖。四日市に一大紡績工場をつくった。

小菅剣之助
「余生を四日市に捧げた名棋人」
将棋八段にして晩詩人。そして衆議院議員であった。四日市を港湾都市に躍進させた。

服部長七
「潮吹き防波堤デザイナー」
長七たきと呼ばれる人造石を発明。四日市港の修築に携わり、潮吹き防波堤を造った。

ヨハネス・デ・レーケ
「治水の恩人」
オランダから来日した内務省技術顧問。彼の作成した計画図が四日市港計画に大きな影響を与えた。

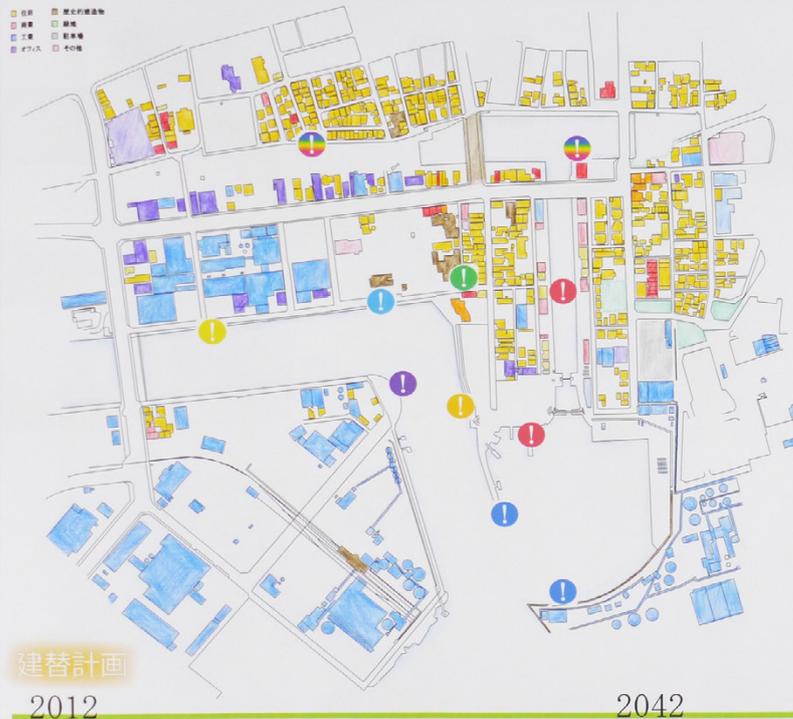
四日市港の歩み

- 江戸 1855年 安政の大地震により四日市港大破
- 明治
- 1872年 三右衛門四日市港修築の決意
- 1874年 伊藤小左衛門が製紙製糸所を開業
- 1875年 四日市港築め立て完了
- 1884年 四日市港完成
- 1886年 伊藤伝七が三重紡績会社設立
- 1886年 ヨハネス・デ・レーケが四日市港計画図を作成
- 1888年 暴風雨により改定埠が久破
- 1891年 九鬼紋七が四日市精油所を設立
- 1893年 服部長七が潮吹き防波堤竣工
- 昭和
- 1928年 小菅剣之助が商工会議所を建設
- 平成
- 1995年 潮吹き防波堤が重要文化財に指定される

team カンガルー工場 410707 加藤千晶 410713 小野 優 410744 佐藤 明彦

地区計画案

七人のまちづくり侍



建替計画

2012

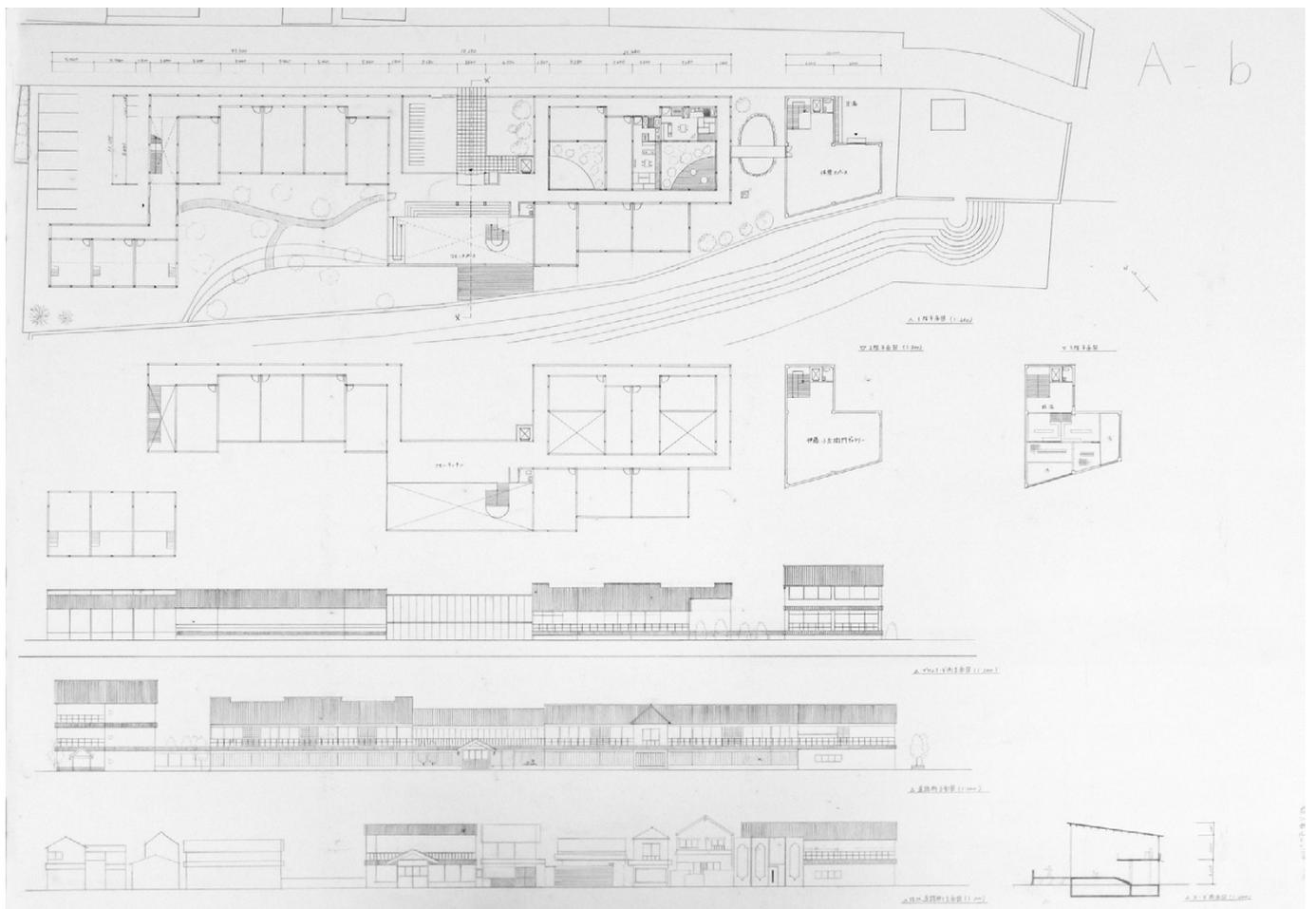
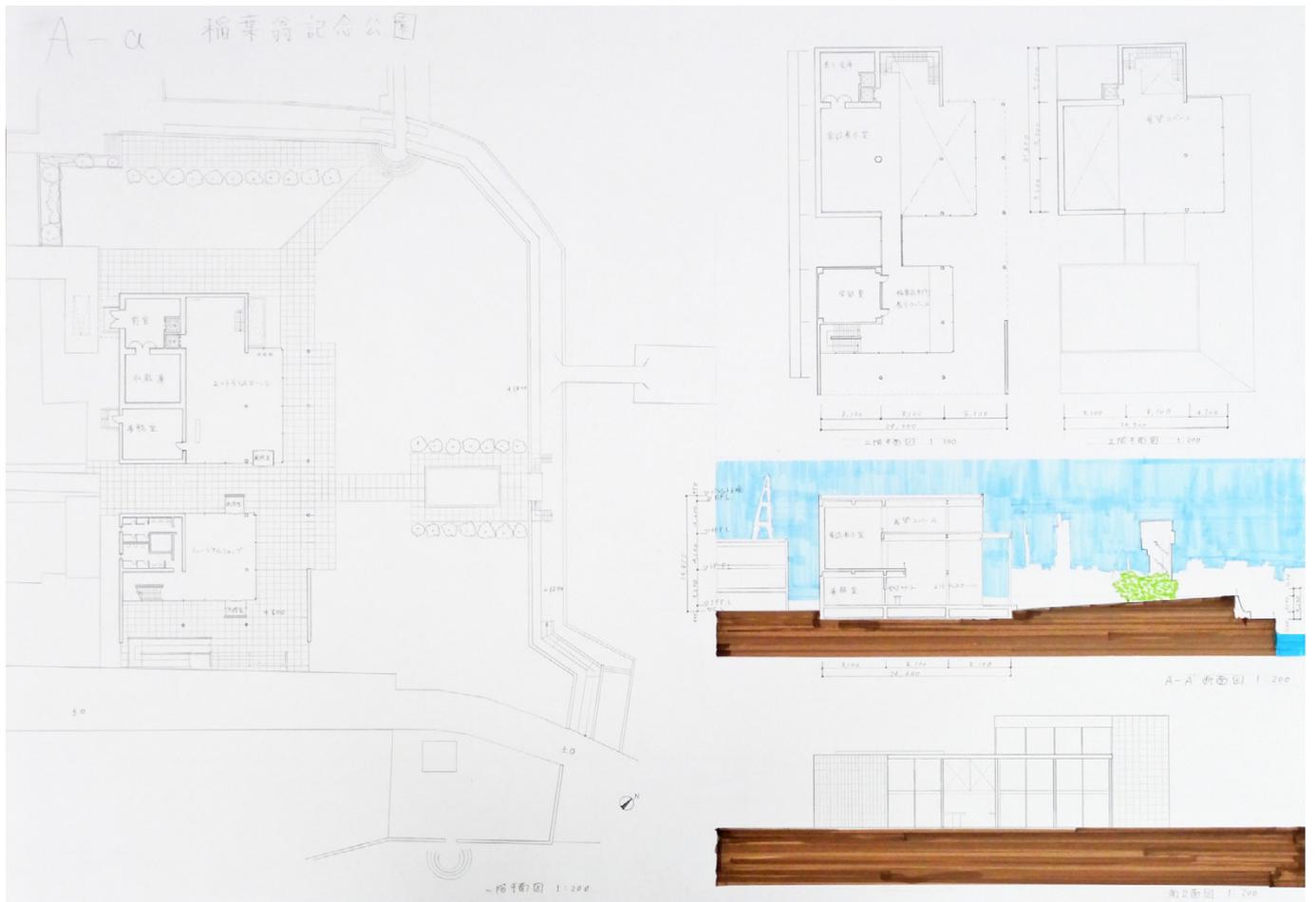
2042

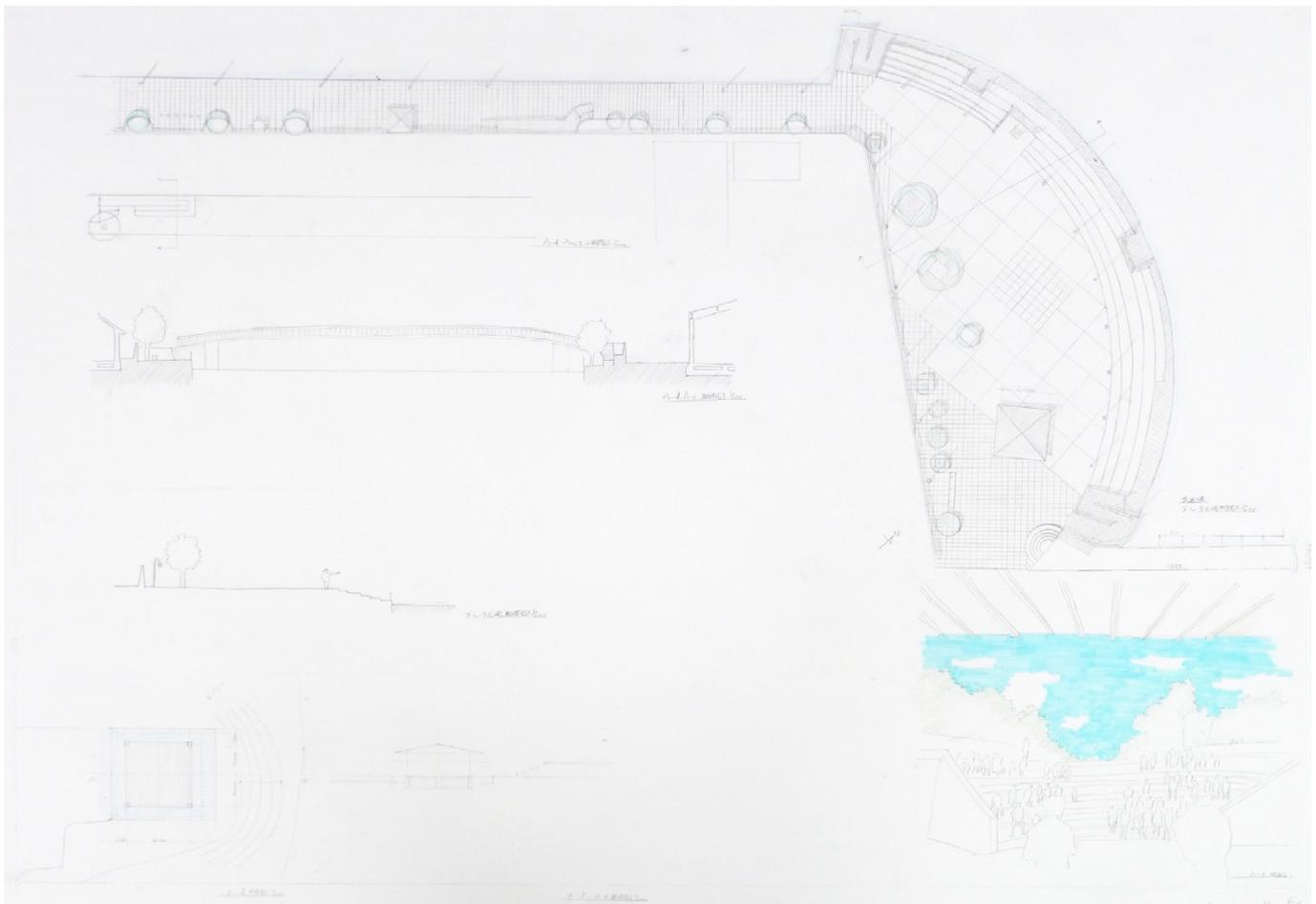
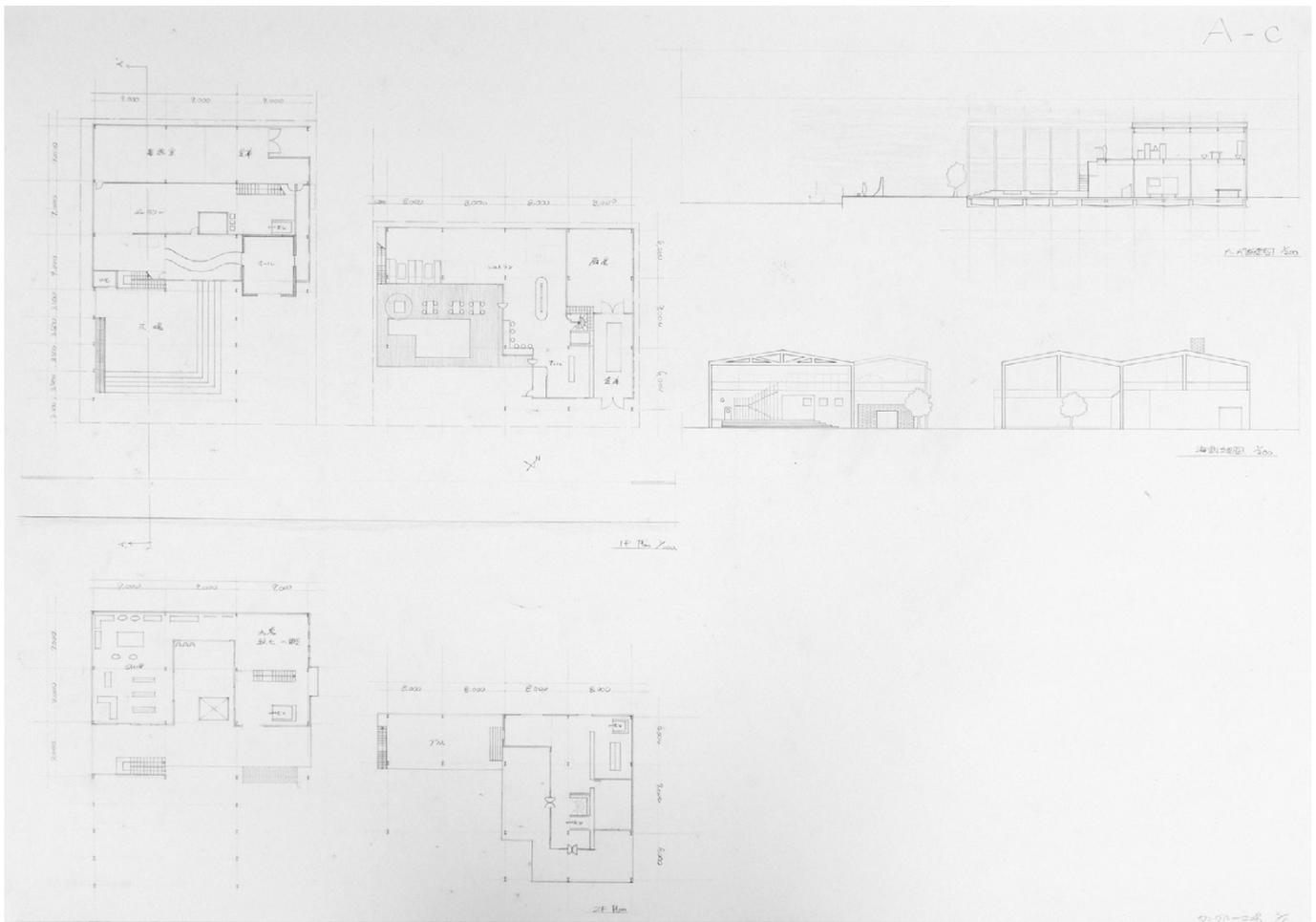


- ① 稲葉三右衛門資料館・運河沿い
- ② 伊藤小左衛門ギャラリー・足湯・銭湯
- ③ ごまレストラン (九鬼紋七)
- ④ 浜松茂 (伊藤伝七)
- ⑤ 尾上別荘 (小菅剣之助) } 歴史公園
- ⑥ 灯台・潮吹き防波堤 (服部長七)
- ⑦ デ・レーケ広場・プロムナード
- ⑧ 納屋防災緑地公園・魚づくし倉庫

- ① まち歩き
- ② 建物と緑
- ③ 歴史公園 (尾上別荘) 公園
- ④ 歴史公園 (尾上別荘) 公園
- ⑤ 歴史公園 (尾上別荘) 公園

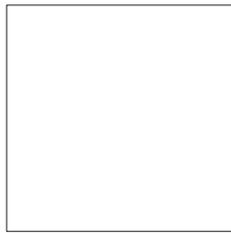




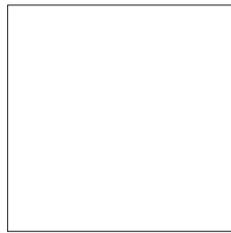


「緑と水と親しみ歩き回りたくなる「みなとまち」」

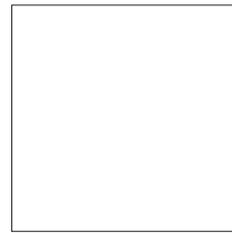
チーム名：天竺様



長橋 祐太



二宮 慶士

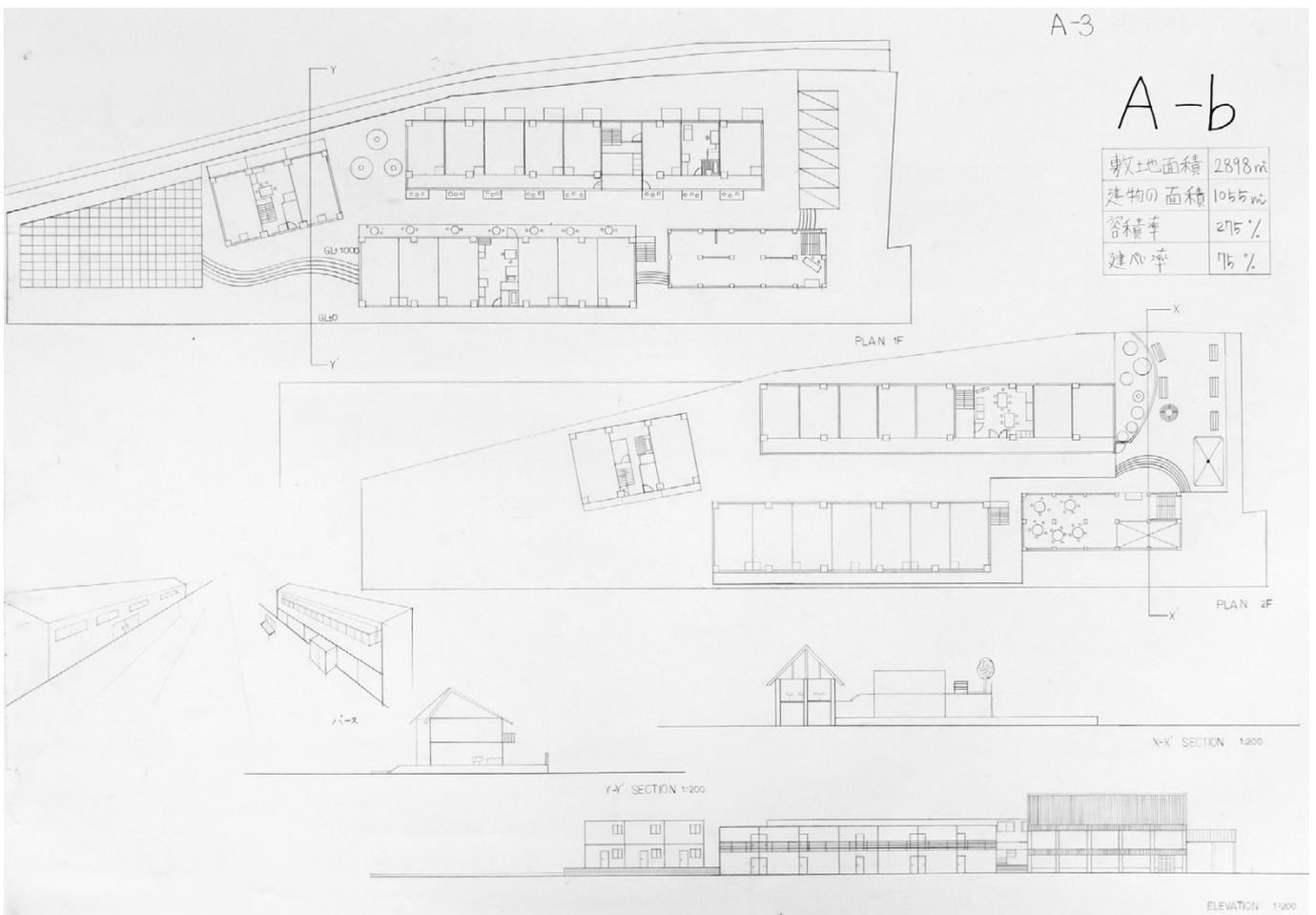
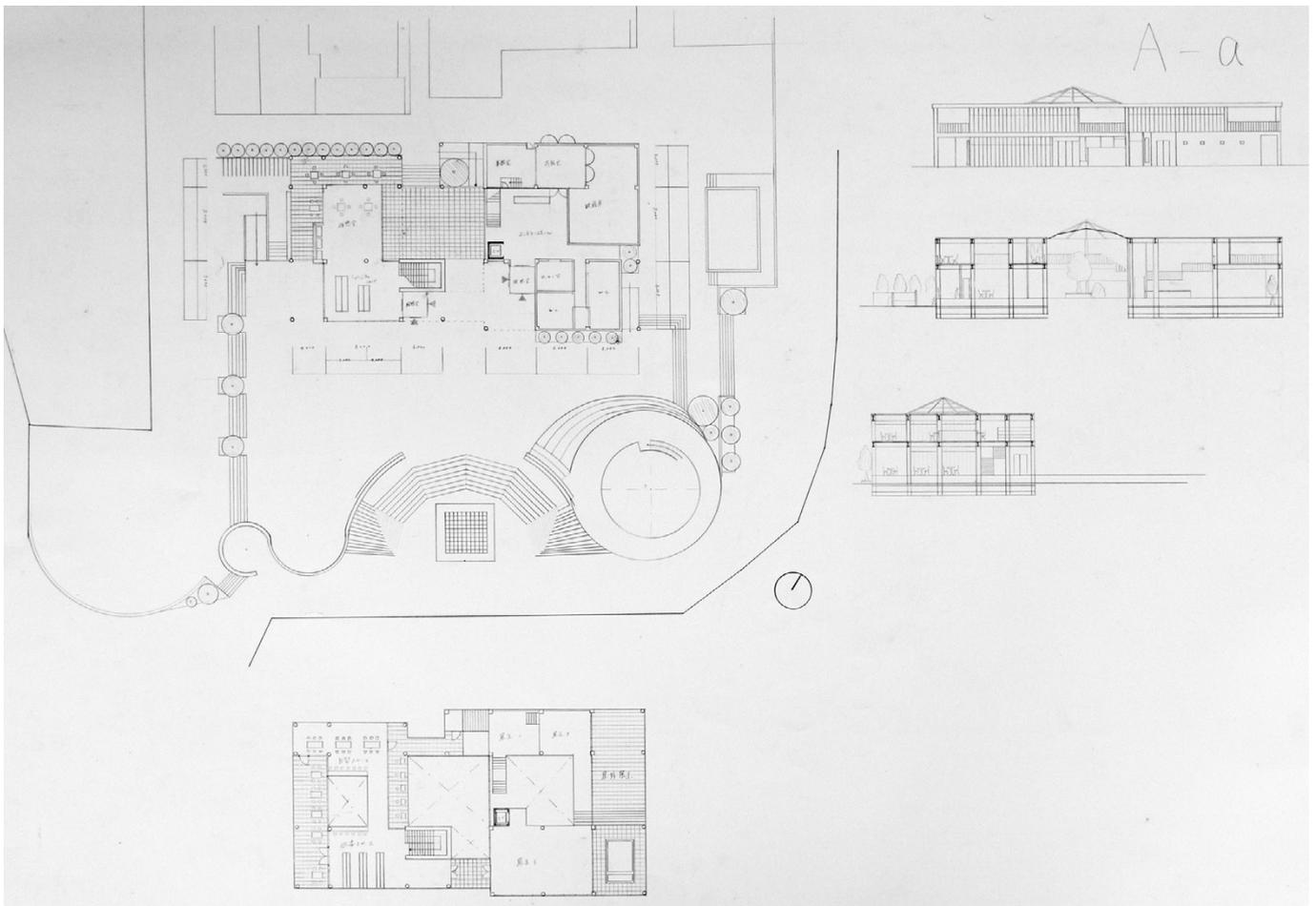


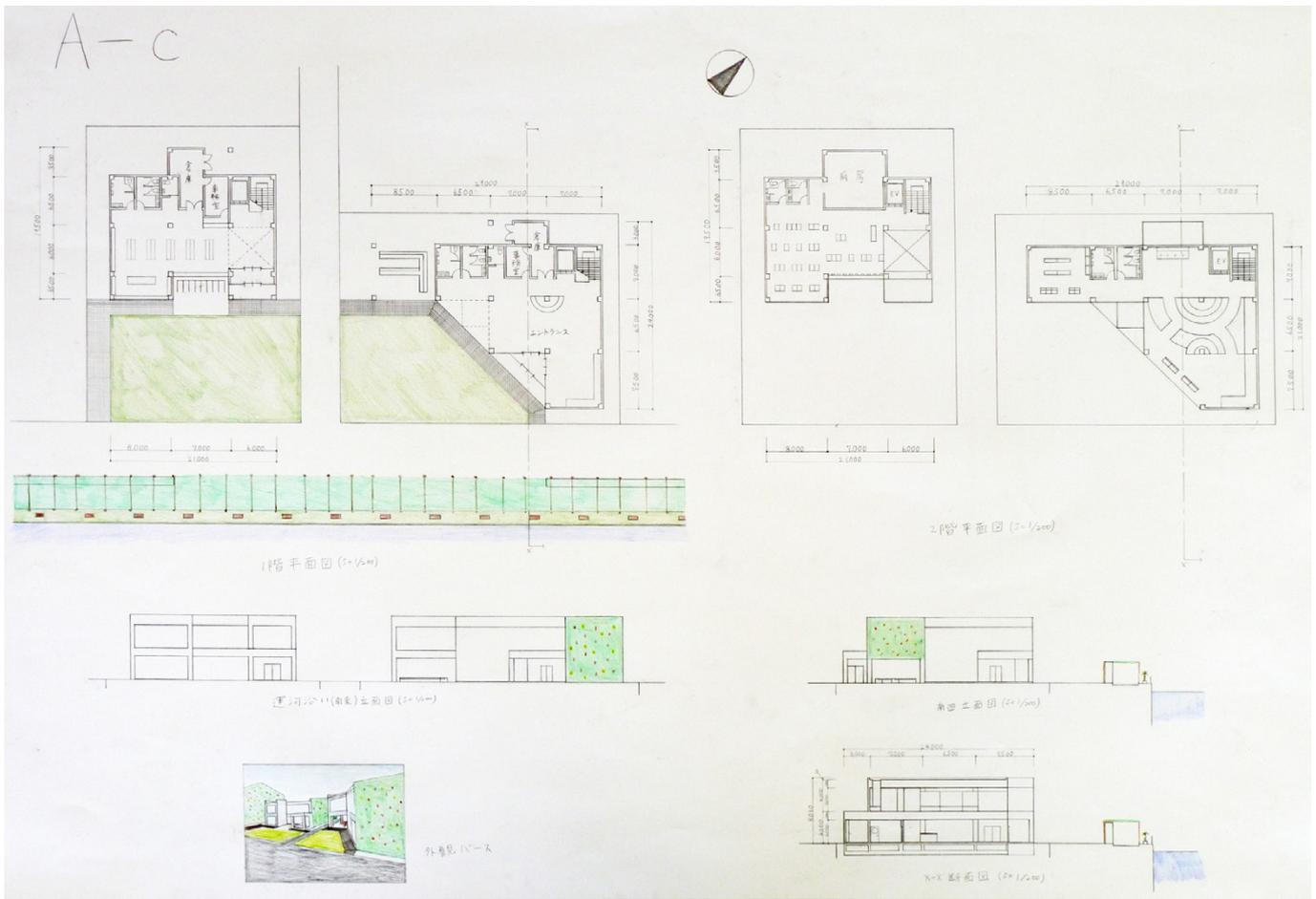
LEE SUNWHOA

<設計趣旨>

この地域は、港になっており海が近く、さらに防災緑地があり植物も近い存在となっている。この港には港の設立者をまつる記念公園「稲葉翁記念公園」があり、また、港にある「潮吹き防波堤」は国の重要文化財に指定されており、四日市港の歴史を学べる地域である。しかし、この地域の周辺は工業地帯であり、道路の整備は行われているが雰囲気重苦しく薄暗く近寄りたたく感じる。さらに、潮吹き防波堤まで距離があり見学しづらい。これらの問題を改善するため、アクセスを良好にすることで港に立ち寄りやすくする。また、防災緑地に昔の姿を蘇らせるとして一部に運河を戻す。そして、運河沿いに通路を設け親水性かつ回遊性を生む。また、薄暗い雰囲気の工場や倉庫の壁面を緑化するなど緑を増やすことで緑のネットワークを生み出し、雰囲気を明るくすることで親近感のあるものにする。これらにより、この「みなとまち」一帯で緑と水の存在を身近に感じ楽しく学べる空間となる。



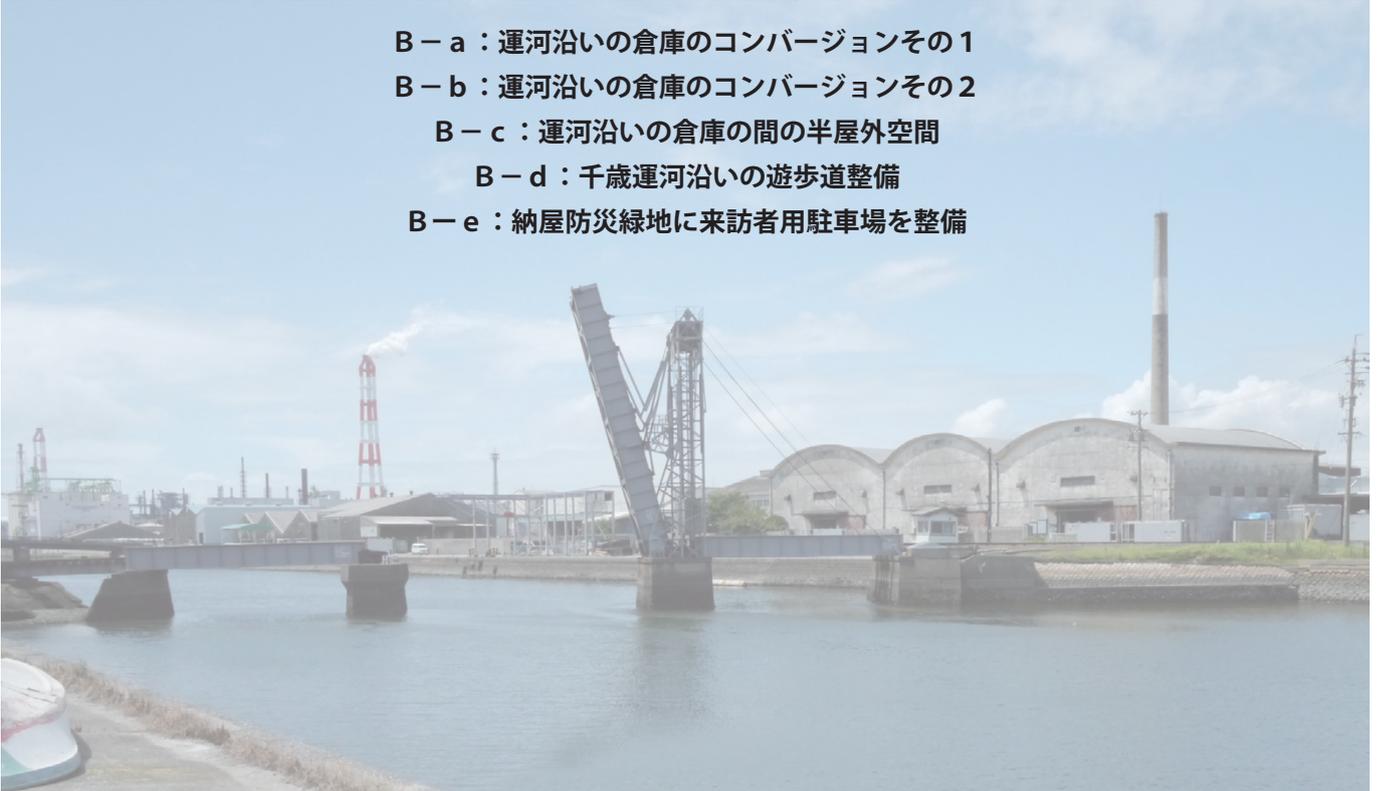




【Bゾーン】

千歳橋から臨港橋の間の千歳運河沿いのゾーン。未広橋梁や倉庫が存在する。

- B-a : 運河沿いの倉庫のコンバージョンその1
- B-b : 運河沿いの倉庫のコンバージョンその2
- B-c : 運河沿いの倉庫の間の半屋外空間
- B-d : 千歳運河沿いの遊歩道整備
- B-e : 納屋防災緑地に来訪者用駐車場を整備



< B-1 : 檸檬革命 > 「場所の力を共鳴させる」

伊藤 翔平

小林 しほり

田中 孝幸

< B-2 : A³ > 「広がる緑」

市原 享典

加藤 義教

溝口 響

「場所の力を共鳴させる」

チーム名：檸檬革命



小林 しほり 田中 孝幸 伊藤 翔平

<設計趣旨>

文化施設を挿入し、まちに点在するそれらの施設と呼応させ、両方の地域を共鳴させる。元々商業港として発展していたこの地区は戦後の過渡期を経て、まちの中心から分断されてしまった。今では工場地帯として発展し、せっかくの港という観光資源を人に還元しきれていない。そこで私たちはこの地区だけでなく、四日市のまちの中心地にまで影響を与え、またそこから影響を受けるような提案をすることで、人の賑わいを取り戻そうと考える。

場所の力が共鳴し合う

410705 伊藤翔平 410712 小林しほり 410722 田中孝幸



地区計画提案



アトリエスペース アートミュージアム ライブラリー アクティクススペース

千歳橋、末広橋梁、臨港橋地区 案が図

徒歩 walk

バス bus

自転車 bicycle

千歳橋-23号線地区 < 駐車場 >

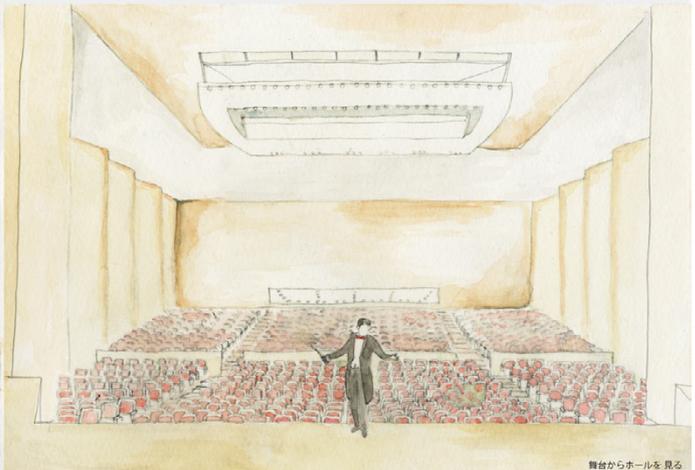
この場所には、50台収容可能な駐車場、路線バスやイベント時の臨時バス・送迎用車などのロータリーを持つ。また、四日市港地区を気軽に回ることでできるレンタサイクルを始め、近鉄白日本駅方面や周辺地域から訪れたい人のための駐輪場などをあわせている。

千歳橋-23号線地区 千歳図(1:500)

43070 伊藤 隆平
43071 小嶋 正史
43072 伊藤 幸平

44

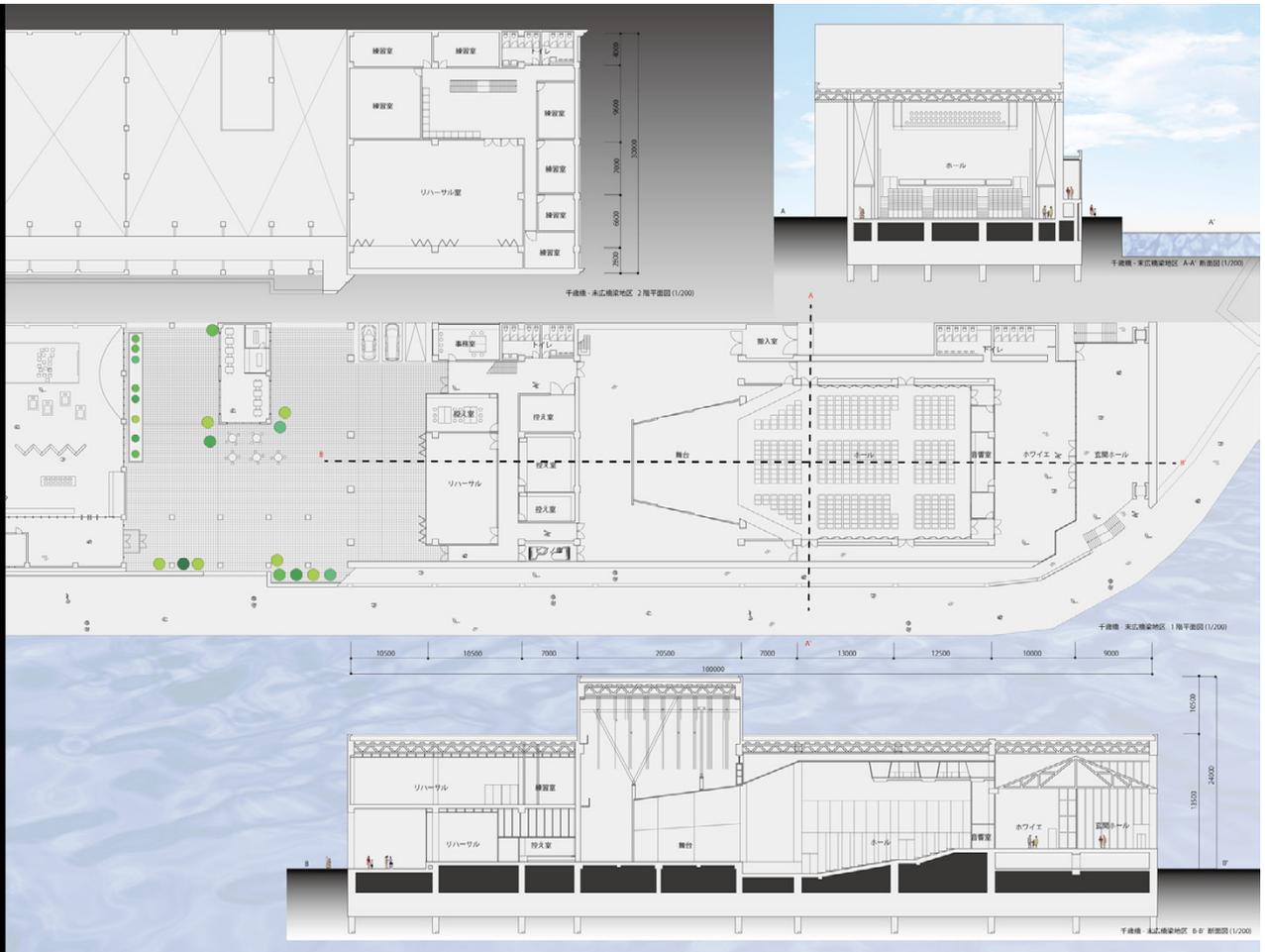
千歳橋、末広橋梁、臨港橋 地区 建築計画



43070 伊藤 隆平
43071 小嶋 正史
43072 伊藤 幸平

54

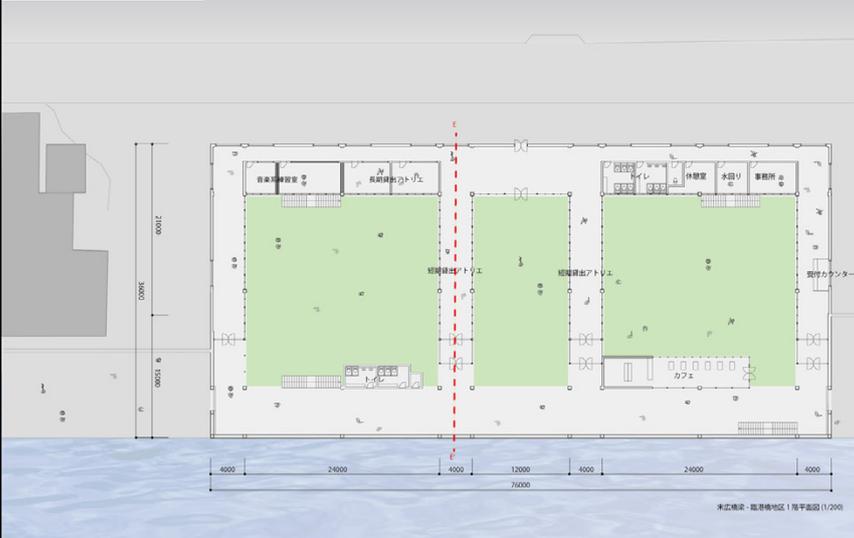
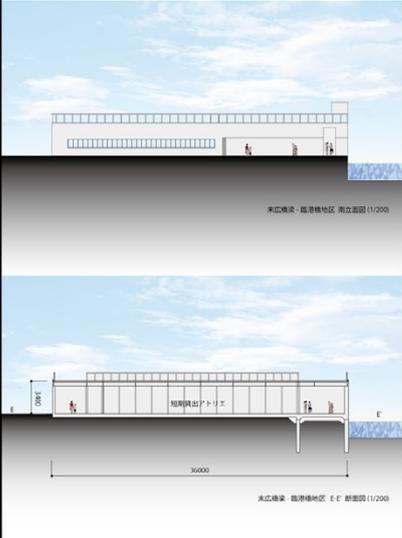
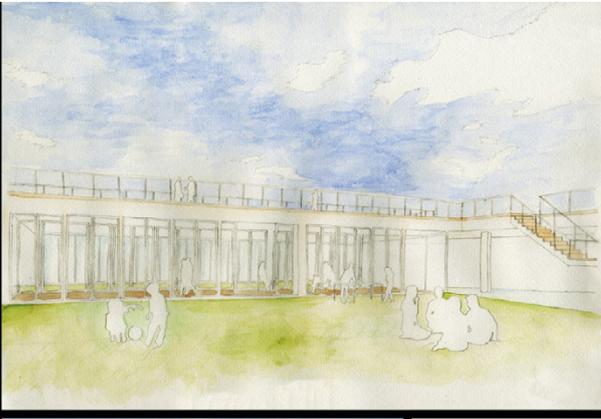
千歳橋 - 末広橋梁地区 建築計画



千歳橋 - 末広橋梁地区 建築計画



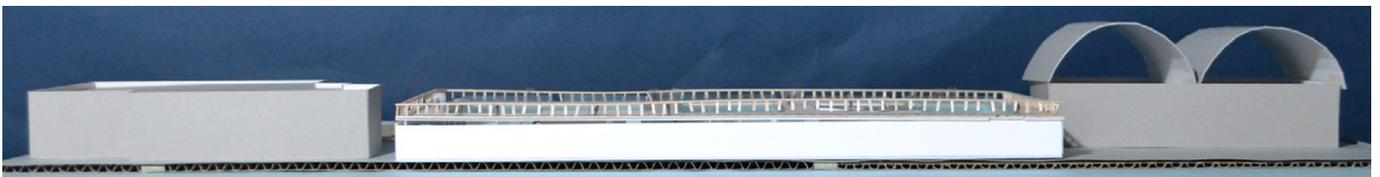
未広橋梁 - 臨港橋地区 建築計画



43070 建築計画
43071 小規模設計
43072 図中文字

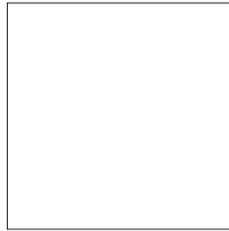
24



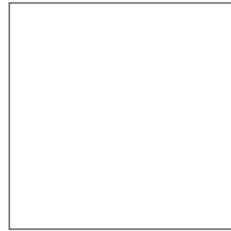


「広がる緑」

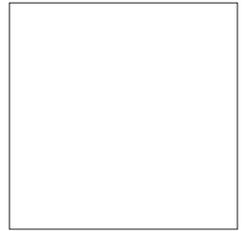
チーム名：A³



市原 享典



加藤 義教



溝口 響

<設計趣旨>

この四日市港周辺の地域は、貿易港であるため、工場や倉庫の集まる場となっている。しかし、その工場や倉庫の間には、川が通り、多くはないが緑もある。また、歴史があり重要文化財の末広橋梁という跳上げ橋も存在している。魅力あるものが存在しているにもかかわらず、工場や倉庫のあるせいでこの地域は人通りが少なく周りの地域から隔離されているように思われる。さらに、隔離されているために道路や緑地の整備といった周辺環境整備もなされていない。このような問題を改善するために、工場や倉庫の周りや間に緑を入れ、さらに周りにある緑とこの地域をつなぐように緑を入れることによって自然環境の整備を行い、この地域を緑豊かな地域にします。また、川の周りにも緑を入れて水が生きるようにします。そこに倉庫をコンバージョンしたホールやギャラリー、体験施設などを入れ、人の集まる空間を作ります。これらを実現することによってこの四日市港を緑、水が豊かで、人の集まる“オアシス”空間にしたいと考えています。さらにはこのオアシス空間が周りに広がっていき四日市市が自然豊かな街になったらと考えます。



広がる緑

410704 市原享典
410708 加藤義教
410735 溝口 響



History

明治	<ul style="list-style-type: none"> 8年 船着き場（船着き場）及び四日市港（設計通り）の整備 8年 日本汽船会社（現日本郵船）により東部（船着き場）の整備 8年 汽船町、船着き場完成 17年 四日市港（船着き場）の完成 22年 9月 特別輸出港に指定 32年 8月 特別輸入港に指定 32年 8月 四日市港、開港場の指定 35年 9月 第2種重要港湾に指定 40年 12月 四日市港開港 42年 7月 企業ドックの新築 45年 3月 海上町設立（12、52、222号） 45年 7月 四日市港第1期建設事業竣工 次正 2年 9月 第1号地庫完成 4年 第1号地庫完成 9年 12月 船客船第1号船入港 9年 12月 第2号地庫完成 14年 第3号地庫完成 4年 四日市港第2期工事竣工 11年 四日市港第2期工事完成 22年 8月 貨物碼頭により貿易港に指定 25年 5月 四日市港船客輸入港に指定 27年 2月 船客乗船場指定 29年 2月 四日市港第3期建設第1期工事着手 31年 2月 四日市港第3期建設第1期工事完了 34年 4月 運輸行政庁工事部編成
----	--

年表

明治 44 年の緑

大正 12 年の緑

現在の緑

Back Ground

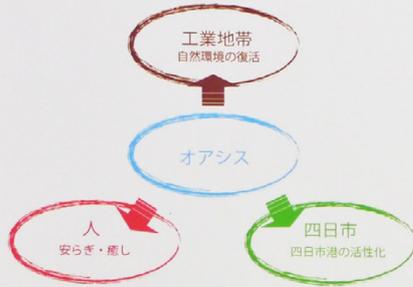
地図で見るとよりも狭く感じる。周りが囲まれてとても閉鎖的。

重要文化財の末広橋梁。周りに何もなく、人が来ないために全く有効活用されていない。

トラックしか通らない、ひび割れて舗装されていない道。川側に手すりもなく、危険。

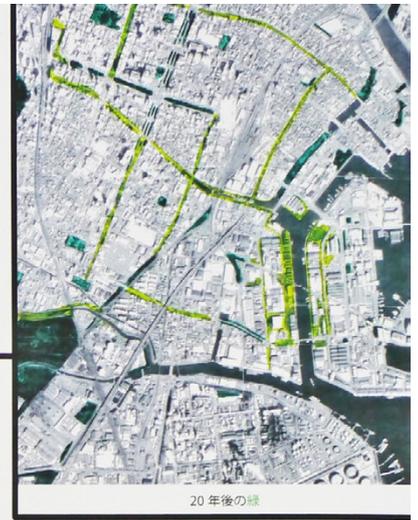
見晴らしは良く、倉庫の屋根並みが見える。トラックなどが行き交い、人通りは無い。

たくさんの雑草に覆われ、全く人がいない公園。



工業地帯で緑の少ない地域であり、舗装されていない道が多く、地域住民から遠い存在になっている。

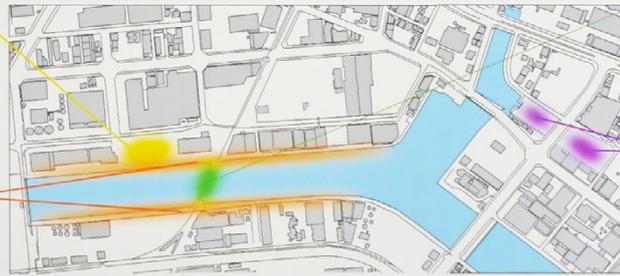
この地域に緑を増やすことで、灰色の工業地帯に色をつけ、自然環境の再生を図ることで人々に安らぎや癒しを与える。人々が集まることで四日市港の活気を取り戻し、この工業地帯のオアシスとなるような地域計画を行う。



① 工場、倉庫の周りの敷地に緑を作る。
また、アクセスする際に使う道路脇に緑を作る。

② 緑は、木を植える、芝をはる、プランターの設置、壁面緑化、屋上緑化などによって増やされる。

③ 植える木は『ソメイヨシノ』。
この木は春に桜を咲かせ、夏に緑の葉をつけ、秋に紅葉し、冬に葉を落とすことで四季を感じさせる。



緑のある空間を通して来てもらいたい

- ① 自転車でのアクセス
例) オレンジ→山津見神社を通してA地区を通して来る
黄色→中央通りを通して直接来る

- ② 徒歩でのアクセス
例) 黄色→JR四日市駅から自転車と同じルートを通して直接来る

- ③ 車でのアクセス
例) 赤→23号線を通して来る
黄色→近鉄四日市から車やタクシーで来る
紫→中央緑地公園から来る



緑に集まる駐車場。
中央の緑地帯を囲むようにして車を駐車する。
その駐車場をかこむようにしてまた緑がある。



B-a Plan 『実験ホールと音楽』

客席やステージが可変式のホール



両サイドがガラス張りで客席以外からも舞台が望める



劇場の反対側は音楽活動の場

スタジオで活動し、ホールのレストランで披露などの音楽活動を行う

B-b Plan 『見て・触れて・作る』

四日市の特産品を用いたレストランと体験スペース



実際に特産品に触れることで四日市の良さを知ってもらう



夜間には重要文化財の末広橋梁をライトアップ

夜景を見ながら四日市の地酒をビアガーデンで飲む

B-c Plan 『緑地公園とアトリエ&ギャラリー』

本館となる円形のギャラリーと箱型のアトリエ

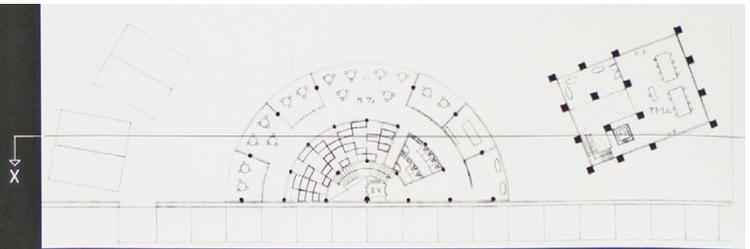


作られた作品はアトリエで展示される

緑地公園にはソメイヨシノがあり四季を感じられる



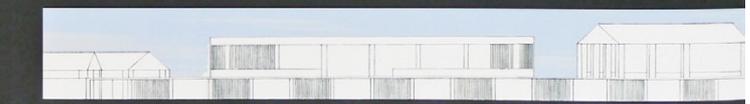
円形は中心性や視覚的要素他との差別化を意識



2nd Plan



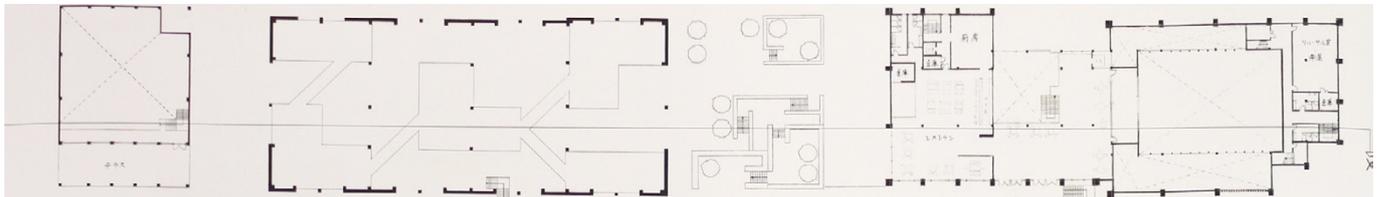
1st Plan



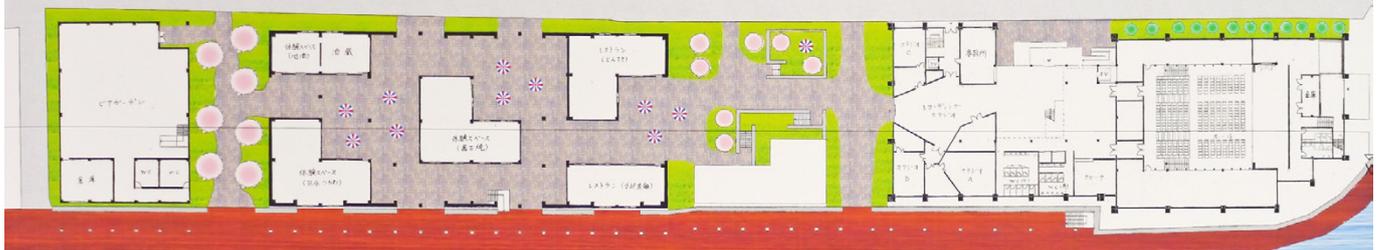
East Elevation



X-X' Section



2nd Plan



1st Plan



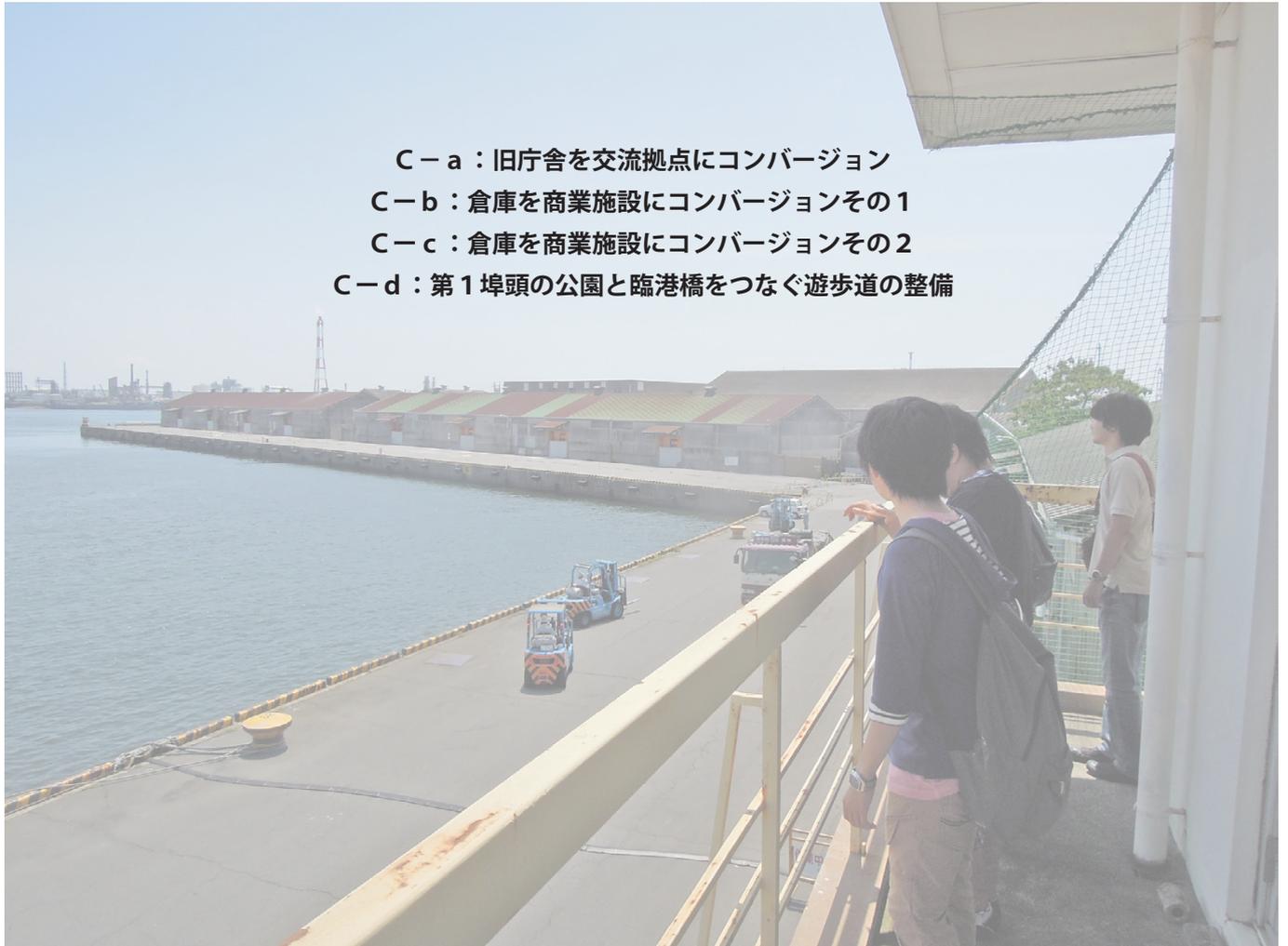
East Elevation



X-X' Section

【Cゾーン】

第1埠頭と第2埠頭を挟んだゾーン。港湾計画では交流拠点として位置づけられている。



< C-1 : 15時27分 > 「TRAIN PORT PARK」

鈴木 友紀子

鶴田 純弘

水野 芳彦

< C-2 : イヴ > 「時めぐりの幸」

石川 綾

中島 有紀子

小山 莉穂

谷川 実希

< C-3 : 変身中 > 「Link × Link × Link」

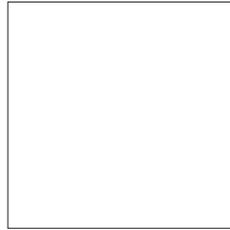
青木 郁弥

城井 敬二郎

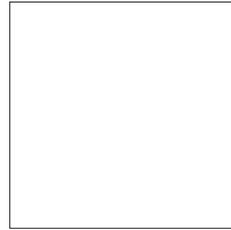
立松 成章

「TRAIN PORT PARK」

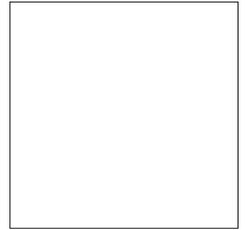
チーム名：15時27分



鈴木 友紀子



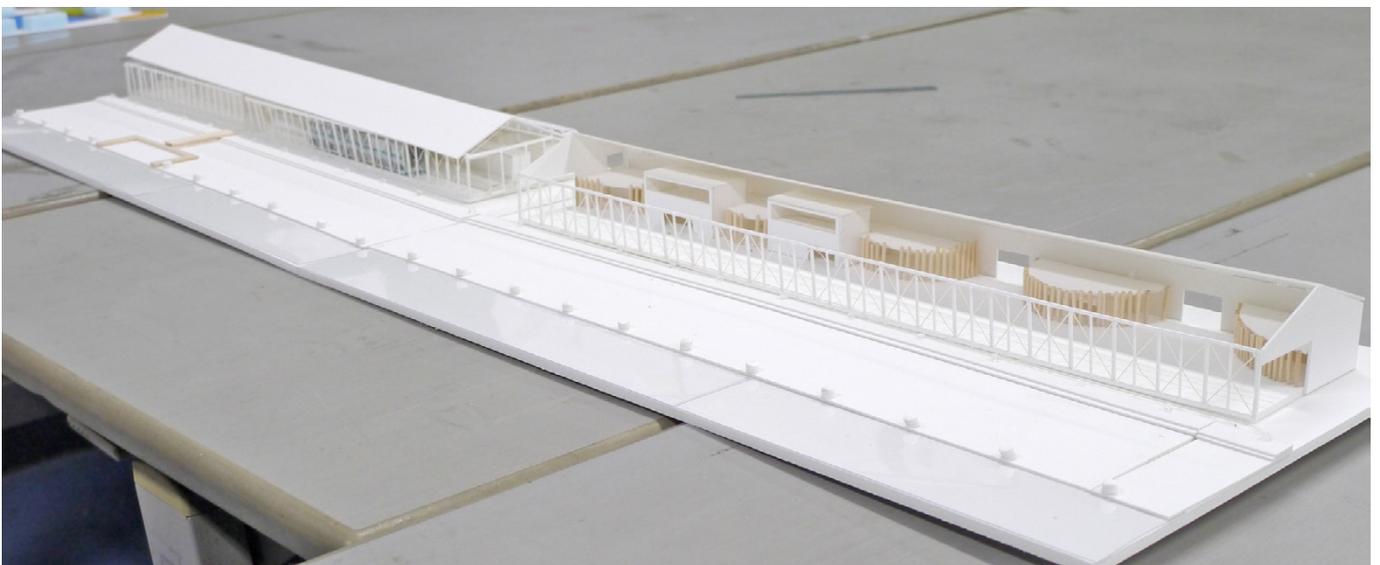
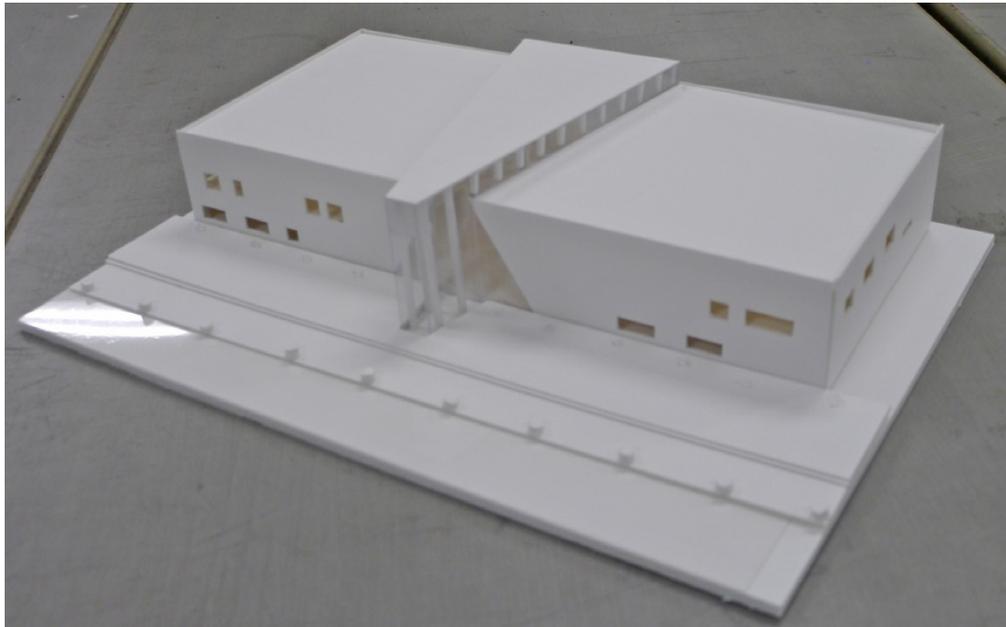
鶴田 純弘



水野 芳彦

<設計趣旨>

現在、工場は工場見学や工場萌えという言葉があるように、子供から大人まで楽しめる施設として注目が集まっている。四日市は石油化学系の工業地帯として昔から工場とともに市民の暮らしがあった。そして、三重県最大のコンビナートを持っていたため、貨物専用路線の宝庫であり、歴史もあるものである。今回の敷地の中でもCゾーンはJR四日市駅からのびる貨物専用路線の終着点にあたり、倉庫や旧庁舎が四日市港の歴史や空気を感じさせる場所だ。また、昔は末広橋梁の手前に四日市港駅が存在していた。しかし、現在は貨物専用路線の半分近くが廃止となり四日市港駅もなくなり、道路も整備され、以前の特徴ある四日市港の面影がなくなりつつある。そこで、この特徴ある貨物専用路線を再建させ、港と繋げることで、この四日市港を本来の姿に戻し、今回の課題における交流拠点を他にはない特徴のある地区にすることを目指していきたいと考えている。



提案の趣旨

現在、工場は工場見学や工場展示という要素があるように、子供から大人まで楽しめる施設として注目されている。四日市は石油化学産業の工業地帯として昔から工場と住宅が混在している。そして、工業地帯のコンテナヤードを壊して住宅地にする動きが、現在もつづいている。貨物鉄道は四日市港と密着した歴史があり、歴史あるものである。今日の貨物鉄道の中で唯一、四日市駅から四日市港までの貨物専用線の延長が、昔は東濃線の手前が四日市港駅が存在していた。しかし、現在は貨物専用線の半分近くが廃止となり四日市港駅がなく、道路が整備され、以前の特色ある四日市港の街並みがなくなっている。そこで、この特色ある貨物専用線を、工業地帯に併せて、この四日市港を未来の街にする。今回の提案における交通施設は単に交通施設にない特徴のある施設にすることを目的としている。

提案内容

- 1 四日市港駅の復活
- 2 商業と住宅の対比
- 3 市民から必要とされる施設の設置
- 4 オープンスペース
- 5 遊歩道
- 6 四日市港駅の復活
- 7 商業と住宅の対比
- 8 コンバージョンを行ったり工場地帯の再開発を図るべく、施設を並べていくことで、過去の歴史を現代に伝える。
- 9 市民から必要とされる施設の設置
- 10 オープンスペース
- 11 工場特有の雰囲気や構造の活用を促し、子供の楽しめる空間や大人特有の空間の活用を促した種類の動きを生かすことができる。
- 12 遊歩道
- 13 近づくにつれて工場や倉庫の建物や、第一階層へつながるような空間を創出したい。

TRAIN PORT PARK

知

遊

買

食

光

イルミネーション & ライトアップ

鉄道博物館 & 企画展示・講演会

クルージング & レールパーク & ボートパーク

三重のB級グルメ & 料理クラブ

雑貨 & イベントマーケット

遊年事業

- ・イルミネーション、ライトアップによる（夜の四日市港）を演出
- ・都市（地産地消野菜および新鮮食品、惣菜、加工食品などの販売）
- ・レールパークやボートパークを有した遊びを演出する
- ・船舶の紹介展示および体験乗船
- ・四日市港の演習イベント
- ・（ナイト）クルージング
- ・貸切イベント列車を使って、社内で宴会やカラオケを楽しむイベント
- ・親子連れ体験参加型イベント
- ・四日市港と鉄道に関するスタンプラリー
- ・ゲーム手作りおもちゃコーナー
- ・靴し店舗を出した人にチャレンジショップ

月毎のイベント

- 1月 ・新日の出を見る
- ・成人式
- 2月 ・新年のイベント
- ・マラソン大会
- 3月 ・4月5月のイベント
- ・遠足遠足マラソン大会（市民）
- 4月 ・四日市クラフトマーケット（全国各地方からクラフトマンが四日市に集結し、ガラスや木工、陶磁器など手作りのクラフト作品を展示、販売）
- ・商業地区外のお店や新しく開業した人にワークショップやチャレンジショップを使ってお祭りムードの中、大勢の人でにぎわすイベント
- 5月 ・この地域の賞し切りした数食店を自由にめぐりながら食事や買物との出会いを楽しむ企画
- ・（四日市、鉄道と港）街づくり事業に関する講演会の実施
- 6月 ・クラフトレース
- ・7月7日に手作り灯籠で天の川をイメージし、約700名が参加する花火大会
- 7月 ・クラフトレース
- ・四日市が鉄道、港と舟に多くての歴史を振り返り、これからの四日市を展望する企画
- ・七夕にちなんで手作り灯籠で天の川をイメージし、約700名が参加する花火大会
- 8月 ・四日市港まつり
- ・マリンレジャー
- ・商業地区外のお店や新しく開業した人にワークショップやチャレンジショップを使ってお祭りムードの中、大勢の人でにぎわすイベント
- ・市民参加による講演会
- 9月 ・靴コン
- ・港に関する関心を高めるための一般市民を対象にした、港風景の写生大会およびその作品の展示
- ・四日市港に関連した港、船、鉄道などをテーマとし、小学生、幼稚園児、保育園児からの作品を募集し、入賞作品を表彰し、展示
- ・マラソン大会（地域の小学校や中学校のマラソン大会をこでやる）
- 10月 ・四日市観光物産フェア
- ・全国各地方と自産自銷として美好品類輸産など四日市に集結する全国の産物村と地産地消から団体を集め、ご当地の観光や物産を紹介、販売する一大物産フェア
- ・みなとフェスタ
- ・パロウイベント
- 11月 ・四日市クラフトマーケット（全国各地方からクラフトマンが四日市に集結し、ガラスや木工、陶磁器など手作りのクラフト作品を展示、販売）
- ・ソングコンテスト
- 12月 ・市民参加による講演会
- ・クリスマスマーケット

土地利用図



商業施設 公園
文化施設 遊歩道
事務所 計画路線

動線計画



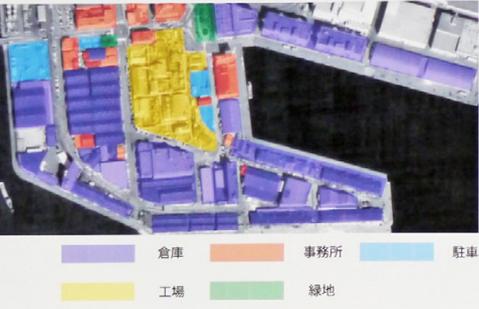
410719 鈴木 友紀子
410724 藤田 純也
410734 内野 尚彦

歴史・現状分析

～四日市港の歴史～

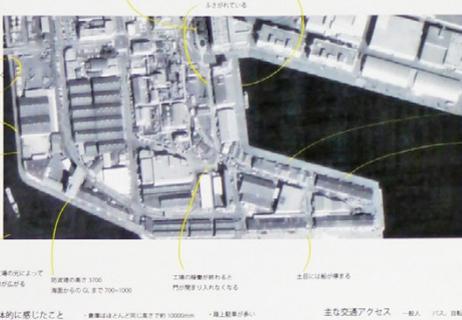
- 1980 (昭和55年) 四日市-東京定期航線開設 (10月)
- 1899 (明治32年) 船渠開港 (外国との貿易が盛んになる)
- 1952 (昭和27年) 特定重要港湾指定 (12月)
- 1958 (昭和33年) 真珠湾開港場
- 1959 (昭和34年) 第一号コンテナヤード (横浜地区) が本格的に稼働開始
- 伊勢湾台災により本埠を壊す (9月)
- 1963 (昭和38年) 第二号コンテナヤード (中野地区) が本格的に稼働開始
- 1966 (昭和41年) 四日市港管理組合設立 (4月1日)
- 1967 (昭和42年) 四日市港管理組合設立 (9月)
- 1970 (昭和45年) 四日市港地区の都市計画決定 (工業地区) (12月)
- 1972 (昭和47年) 第三号コンテナヤード (霞ヶ浦地区) が本格的に稼働開始
- 四日市港地区の都市計画決定 (7月)
- 1974 (昭和49年) 四日市港地区の都市計画決定 (12月)
- 1984 (昭和59年) 本埠の埠頭止まりの決定 (COO稼働開始の安全確保) (7月)
- 1995 (平成7年) 公共コンテナ埠頭 (第2号コンテナヤード) 完成 (7月)
- 1999 (平成11年) 四日市港管理組合センター完成 (3月)
- 四日市港地区の都市計画決定 (12月)
- 1998 (平成10年) 本埠の埠頭止まりの決定 (12月)
- 1999 (平成11年) 開港100周年記念式典挙行 (9月4日)
- 2002 (平成14年) 船渠管理組合として初めて5014001の認定を取得
- コンテナ貨物取扱量は200万トンを超える
- 2004 (平成16年) 伊勢湾 (名古屋、四日市港) としてスーパー中核都市に指定
- 2005 (平成17年) 指定特定重要港湾に指定
- 2007 (平成19年) 指定特定重要港湾に指定
- 東濃線と東濃線 65名乗務員増員
- 2007 (平成19年) 北米西海岸コンテナ埠頭 (伊勢湾) 開設

土地利用図



倉庫 事務所 工場 緑地 駐車場

現状分析



全体的に感じること
・事業区画と周辺区画で約10000m²の差がある
・事業区画は約10000m²あり、周辺区画は約10000m²あり
・トラックなど大型車両の交通が多い
・主たる交通アクセス
一人 バス、自転車、徒歩
二人 バス、自転車、徒歩
三 自転車、徒歩

四日市市の人口について

人口と世帯数の推移

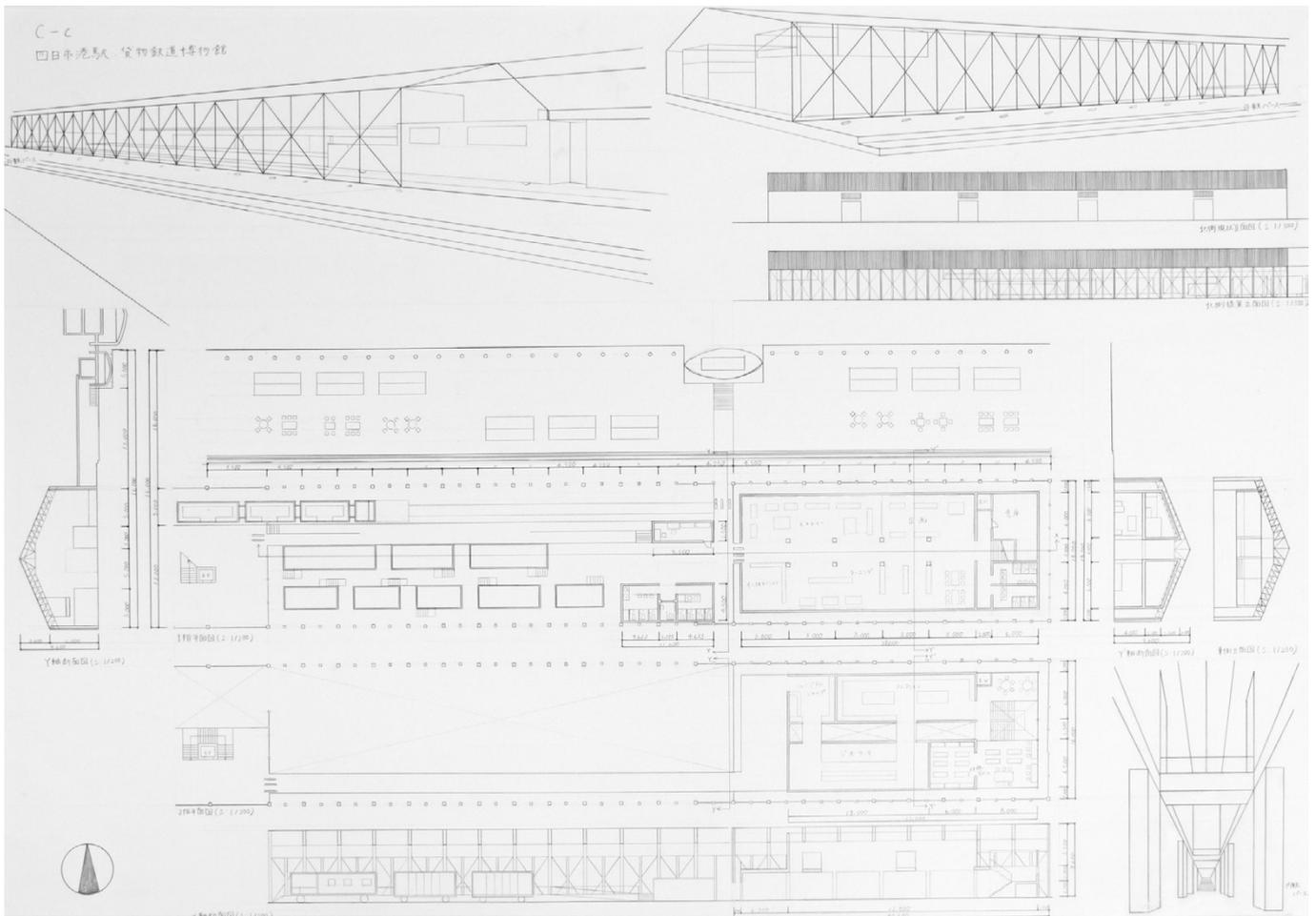
基準年月	世帯数 (世帯)	総数 (人)	男 (人)	女 (人)	
平成2年10月1日	197,33	89,664	276,788	135,981	140,807
平成3年10月1日	197,33	92,075	280,110	137,780	142,330
平成4年10月1日	197,33	94,326	283,131	139,454	143,677
平成5年10月1日	197,33	96,015	284,805	140,451	144,354
平成6年10月1日	197,33	97,657	286,660	141,319	145,341
平成7年10月1日	197,36	99,524	288,654	142,380	146,274
平成8年10月1日	197,36	101,257	290,058	143,222	146,836
平成9年10月1日	197,36	102,598	291,048	143,876	147,172
平成10年10月1日	197,36	104,196	292,379	144,525	147,854
平成11年10月1日	197,36	105,613	292,910	144,839	148,071
平成12年10月1日	197,37	106,997	293,781	145,024	148,757
平成13年10月1日	197,39	108,948	295,654	145,861	149,793
平成14年10月1日	197,40	110,515	296,651	146,297	150,354
平成15年10月1日	197,40	111,758	297,284	146,440	150,844
平成16年10月1日	197,40	113,426	298,137	146,945	151,192
平成17年10月1日	205,16	119,538	310,966	153,497	157,469
平成18年10月1日	205,30	121,636	312,062	154,384	157,678
平成19年10月1日	205,53	123,852	313,403	155,472	157,931
平成20年10月1日	205,53	124,180	313,705	155,676	158,029
平成21年10月1日	205,53	126,378	315,013	156,687	158,326
平成22年10月1日	205,53	126,983	314,489	156,364	158,125
平成23年10月1日	205,58	128,003	314,525	156,441	158,084
平成24年10月1日	205,58	129,003	314,453	156,437	157,996
11月1日	205,58	129,954	314,009	156,125	157,884

性別による人口推移

年齢	総数 (人)	男 (人)	女 (人)
総数	313,915	156,090	157,825
0歳～4歳	13,950	7,224	6,726
5歳～9歳	14,564	7,437	7,127
10歳～14歳	15,806	8,100	7,706
15歳～19歳	15,573	7,979	7,594
20歳～24歳	16,200	8,439	7,761
25歳～29歳	18,424	9,844	8,580
30歳～34歳	20,517	10,507	9,510
35歳～39歳	24,707	12,666	11,741
40歳～44歳	24,967	12,917	12,050
45歳～49歳	21,134	10,842	10,292
50歳～54歳	18,426	9,260	9,166
55歳～59歳	17,719	8,772	8,947
60歳～64歳	23,163	11,266	11,897
65歳～69歳	19,635	9,564	10,071
70歳～74歳	17,400	8,187	9,213
75歳～79歳	14,149	6,428	7,721
80歳～84歳	9,872	4,032	5,840
85歳～89歳	5,423	1,789	3,634
90歳～94歳	2,113	440	1,673
95歳～99歳	365	88	477
100歳以上	108	9	99

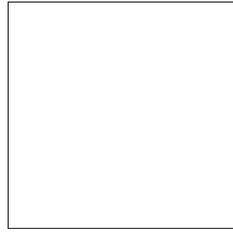
貨物鉄道について

410719 鈴木 友紀子
410724 藤田 純也
410734 内野 尚彦

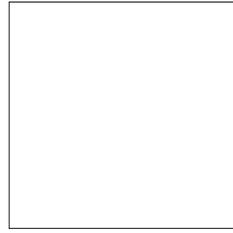


「時めぐりの幸」

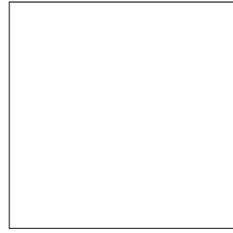
チーム名：イヴ



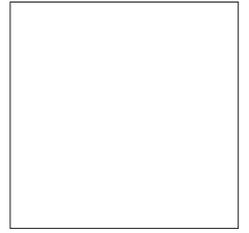
石川 綾



中島 有紀子



小山 莉穂

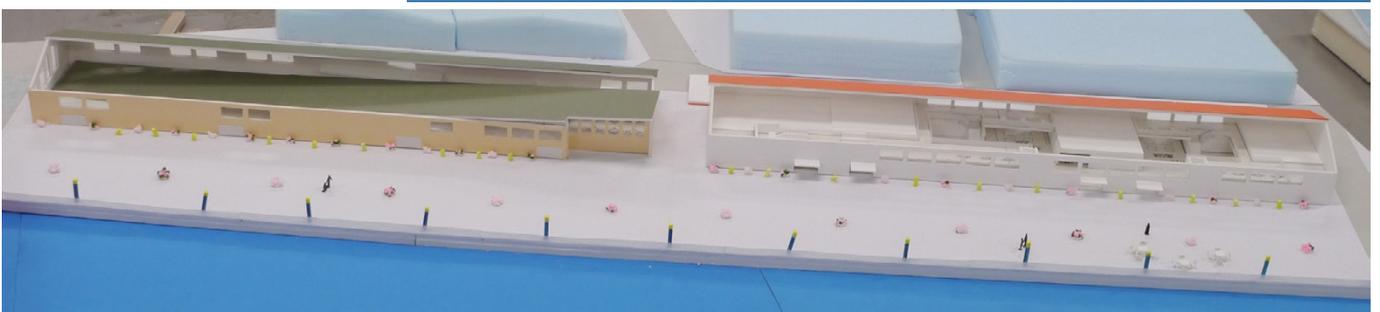
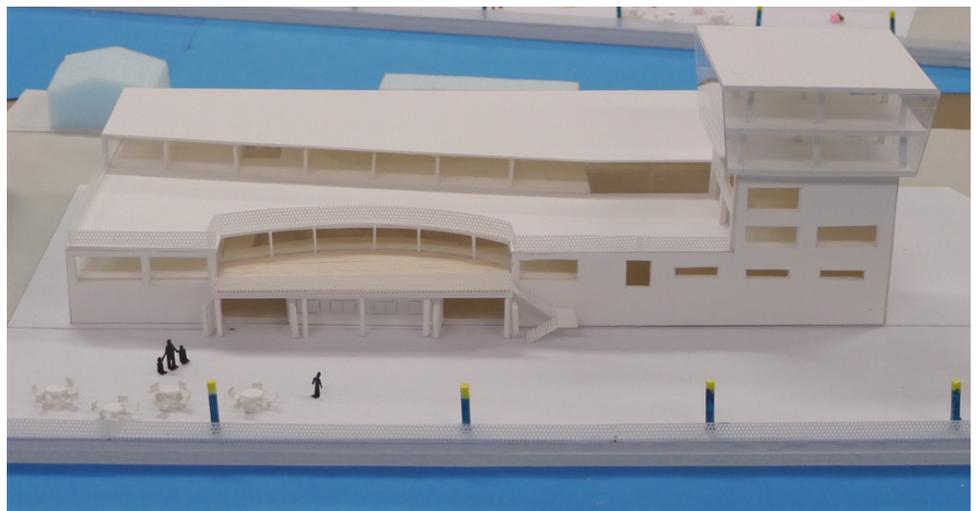


谷川 実希

<設計趣旨>

四日市港の歴史(過去)を知り、現代そして未来(幸せ)を作っていく。C-aは市民活動の拠点場、C-bは貿易文化の飲食・買い物、そしてC-cは船の博物館として計画した。C-aを未来、C-b・cを過去とそれぞれ位置付ける。C-b・cで歴史を知り、C-aはそこで学んだ歴史を生かしてこれからの未来を使っていく。主にC-aは市民、C-b・cは観光客が利用するが、C-aとC-b・cの間にクルーズ船乗り場を兼ねた市民と観光客が交流できる休憩所を設置し、市民と観光客が一体となって活動できる場とした。

建物の名前をC-aは市民が集団で芸術活動をして幸を得る『集芸の幸』、C-bは外国から運ばれてきた文化や輸入品を得ることができる『舶貨の幸』、C-cは外国との取引や四日市港の歴史を知り知識を得ることができる『船路の幸』と名付けた。幸の意味は獲物をとる「収穫」としてとらえる。C-a・b・cにめぐることそれぞれの幸を収穫してほしい。



歴史・現状分析

C-2 410702 石川 隼 410746 小山 莉穂
イヴ 410727 中島有紀子 410747 谷川 実希

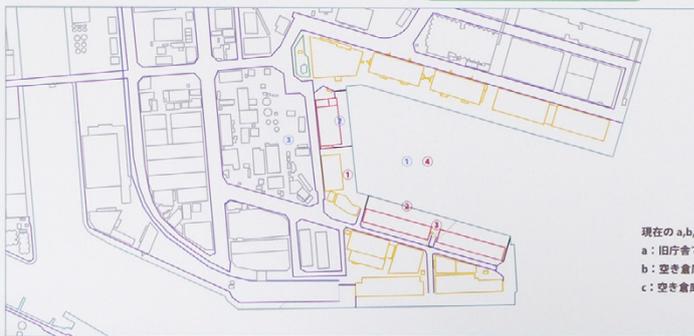
運河沿いの景観要素

- ① 港の雰囲気を残す
 - ・船上レストランなどの催しを行うなどして、船を滞在させる
 - ・船停め、波止場を残す
- ② 旧庁舎の展望台の代わりを設ける
 - ・aの2階のバルコニー、階段
- ③ c-aの背後の山並みの眺望
 - ・c-aの建物を高くしすぎない



改善すべき景観要素

- ① 緑が少ない
 - ・雑草をなくし、整備された緑を増やすことで良好な景観にする
- ② 運河沿いに橋がない
 - ・一般に公開するには危険なため、橋を作る
- ③ 倉庫の改善
 - ・c-b, c-cの倉庫が重々しく、陰気
 - オープンスペースから見える外観をもっと明るくする
- ④ 水辺上の空間をデザインする



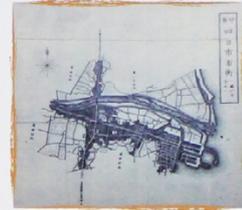
四日市港 年表

年月	事柄
文明5 1473	「四ツ市庭渡」の名が初出
万延元 1860	伊藤小左衛門が茶葉を栽培し、種茶からの茶の輸出を始める
慶応3 1867	幕末船政盛況。干船を運搬して四日市港へ入港
明治3 1870	四日市・東京の定期航路開設
明治6 1873	稲葉三右衛門ら、築港に着手
明治8 1875	農業専業開始
明治16 1883	共同運輸会社横浜-四日市に定期航路を開設
明治17 1884	稲葉三右衛門による旧港修築工事完成
明治22 1889	特別輸出港に指定される
明治30 1897	開港外貿易に指定される
明治32 1899	開港場に指定される
明治38 1905	流州・朝野運港と定期航路を開始

明治41 1908	利根川渡海運(日本海運)の寄港地となる
大正6 1917	四日市港臨海海岸線の所、高砂町に開設
大正13 1924	養蚕用船舶寄港地を指定される
昭和16 1941	第2海軍燃料庫、築港を開始
昭和22 1947	全国に先駆けて茶を輸入第1輸入港
昭和27 1952	特定重要港湾に指定される
昭和34 1959	伊勢湾風上り大被害を受ける
昭和41 1966	四日市港管理組合設立
昭和43 1968	四日市港と兼州シドー一港との特殊港提携
昭和47 1972	四日市港と九州を結ぶカーフェリー就航する 乗用車の本格的輸出が始まる
昭和48 1973	オーストラリアパビリオン完成
昭和59 1984	築港100周年、開港85周年記念式典挙行
平成8 1996	四日市港国際物流センター完成 旧港浜渡設(潮吹き防波堤)が国の重要文化財に指定
平成11 1999	四日市港開港100周年 ボードビル竣工



四日市港の図
稲葉街には建が立ち並び、高砂町には旅館などが描かれている。開港船のふもとには海運会社の事務所も見られる。蒸気船が沖合に停泊する姿もある。



伊勢四日市市街(明治19年)
明治17年(1884)5月に、三右衛門によって完成された港は、清化した波止場の先端は丸みを帯びたものになっていた。
稲葉町を走る道は開港場によって、四日市のメインストリートである浜往還(立町通)に買われるように計画されたもの。

- ・b, c 南側は向かいの工場により運送機器が溢れ一般人が通るには危険である
- ・工場の作業員と思われる路上駐車が周辺道路を埋めており交通や見映えとして悪い



現在のa,b,cの使われ方
a: 旧庁舎で立て壊し中
b: 空き倉庫(物置き場)
c: 空き倉庫(物置き場)

地区計画案

時めぐりの舞

410702 石川 隼
C-2 410727 中島有紀子
イヴ 410746 小山 莉穂
410747 谷川 実希

テーマ

四日市港の歴史(過去)を知り、
現代そして未来(幸せ)を作っていく

- ・商業貿易の繁栄、現在は工業港として名の知れる
四日市港を今後は市民活動の拠点とする
- ・aは主に市民、b,cは主に観光客が利用し、
間には市民と観光客が交流できる場所
- ・幸の意味: 獲物をとる→収穫
- ・abcに巡ることで、それぞれの棟で得られる幸
- ・都市計画として、過去を知りその状態を改善したり活かすもの=温故知新

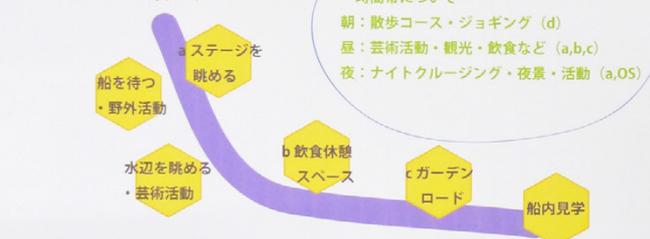
商業港 → 工業港 → 市民活動の拠点



計画のイメージ



オープンスペースのイメージ



時間帯について
朝: 散歩コース・ジョギング (d)
昼: 芸術活動・観光・飲食など (a,b,c)
夜: ナイトクルージング・夜景・活動 (a,OS)



10年後計画
① 路上駐車禁止による駐車場・道路整備
② a,b,c(船)の設置
③ オープンスペース
④ dの舗装
⑤ 立て壊し・公園の拡張・デッキ etc
⑥ バスの運行改正

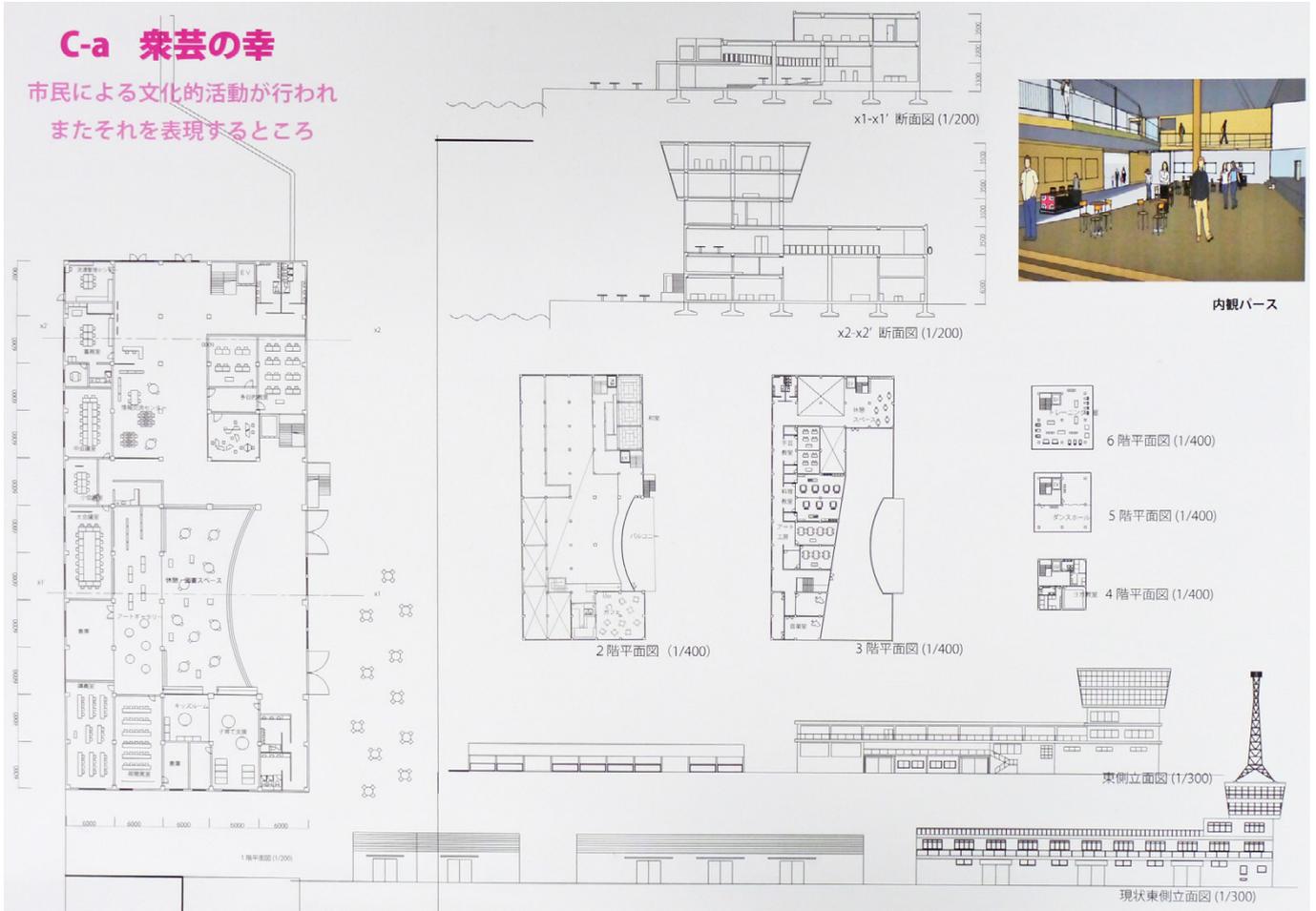


人の動線について
→ 町からのアプローチ
→ 橋から遊歩道を通り港へ
→ 船上レストラン・ナイトクルージング航路
■ 滞留空間

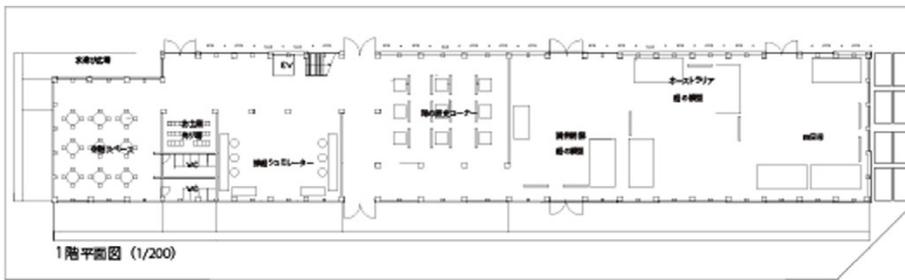
町からのアプローチ
[バス] 7時~9時~17時~23時
平日 2本 2本 2本 /h
休日 2本 3本 3本 /h
[車] C-a 西を駐車場として整備

C-a 衆芸の幸

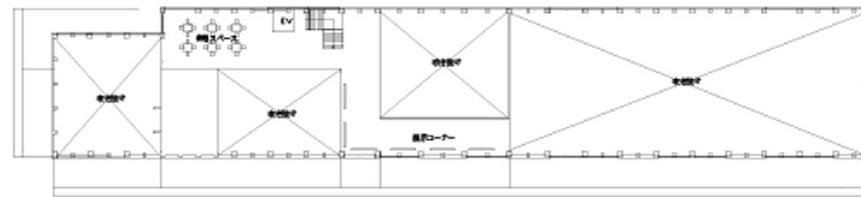
市民による文化的活動が行われ
またそれを表現するところ



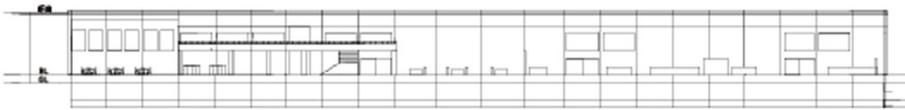
C-b 舶貨の幸
貿易により広まった文化を
見たり買ったり食べれる



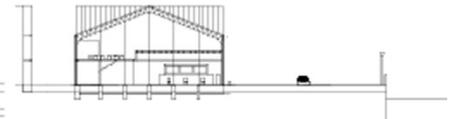
船の模型展示場



2階から見た景色



断面図 (1/200)



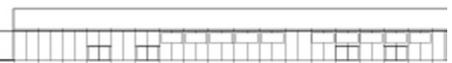
断面図 (1/200)



東立面図 (1/300)

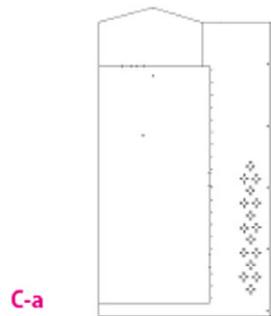


北立面図 (1/300)

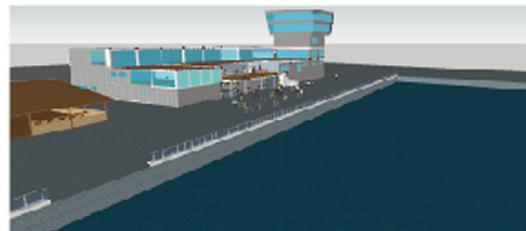


現状連続立面図 (1/300)

C-c 船路の幸
体験したり見たりして
船について学べる



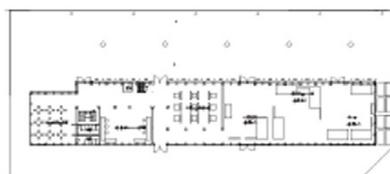
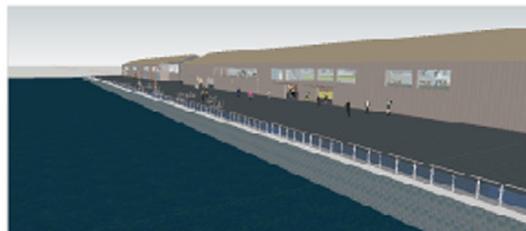
C-a



C-d
オープンスペース



C-b

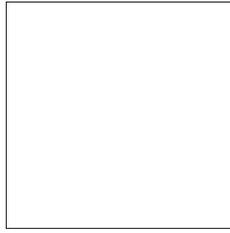


C-c

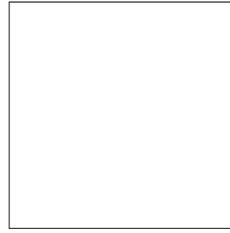


「Link × Link × Link」

チーム名：変身中



青木 郁弥



城井 敬二郎

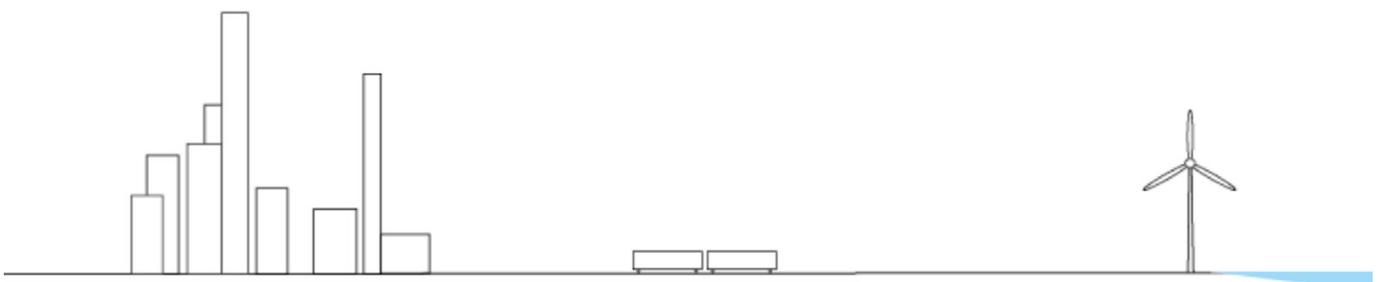


立松 成章

<設計趣旨>

四日市港の歴史(過去)を知り、現代そして未来(幸せ)を作っていく。C-aは市民活動の拠点場、C-bは貿易文化の飲食・買い物、そしてC-cは船の博物館として計画した。C-aを未来、C-b・cを過去とそれぞれ位置付ける。C-b・cで歴史を知り、C-aはそこで学んだ歴史を生かしてこれからの未来を使っていく。主にC-aは市民、C-b・cは観光客が利用するが、C-aとC-b・cの間にクルーズ船乗り場を兼ねた市民と観光客が交流できる休憩所を設置し、市民と観光客が一体となって活動できる場とした。建物の名前をC-aは市民が集団で芸術活動をして幸を得る『集芸の幸』、C-bは外国から運ばれてきた文化や輸入品を得ることができる『舶貨の幸』、C-cは外国との取引や四日市港の歴史を知り知識を得ることができる『船路の幸』と名付けた。幸の意味は獲物をとる「収穫」としてとらえる。C-a・b・cにめぐることそれぞれの幸を収穫してほしい。

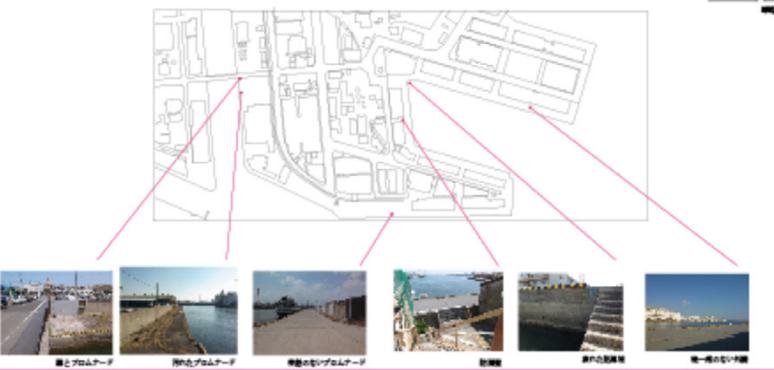
Link × Link × Link



- 【四日市 年表】
- 明治
 - 1870(明治3)
 - 1874(明治7)
 - 1875(明治8)
 - 1876(明治9)
 - 1877(明治10)
 - 1878(明治11)
 - 1879(明治12)
 - 1880(明治13)
 - 1881(明治14)
 - 1882(明治15)
 - 1883(明治16)
 - 1884(明治17)
 - 1885(明治18)
 - 1886(明治19)
 - 1887(明治20)
 - 1888(明治21)
 - 1889(明治22)
 - 1890(明治23)
 - 1891(明治24)
 - 1892(明治25)
 - 1893(明治26)
 - 1894(明治27)
 - 1895(明治28)
 - 1896(明治29)
 - 1897(明治30)
 - 1898(明治31)
 - 1899(明治32)
 - 1900(明治33)
 - 1901(明治34)
 - 1902(明治35)
 - 1903(明治36)
 - 1904(明治37)
 - 1905(明治38)
 - 1906(明治39)
 - 1907(明治40)
 - 1908(明治41)
 - 1909(明治42)
 - 1910(明治43)
 - 1911(明治44)
 - 1912(明治45)
 - 1913(明治46)
 - 1914(明治47)
 - 1915(明治48)
 - 1916(明治49)
 - 1917(明治50)
 - 1918(明治51)
 - 1919(明治52)
 - 1920(明治53)
 - 1921(明治54)
 - 1922(明治55)
 - 1923(明治56)
 - 1924(明治57)
 - 1925(明治58)
 - 1926(明治59)
 - 1927(明治60)
 - 1928(昭和3)
 - 1929(昭和4)
 - 1930(昭和5)
 - 1931(昭和6)
 - 1932(昭和7)
 - 1933(昭和8)
 - 1934(昭和9)
 - 1935(昭和10)
 - 1936(昭和11)
 - 1937(昭和12)
 - 1938(昭和13)
 - 1939(昭和14)
 - 1940(昭和15)
 - 1941(昭和16)
 - 1942(昭和17)
 - 1943(昭和18)
 - 1944(昭和19)
 - 1945(昭和20)
 - 1946(昭和21)
 - 1947(昭和22)
 - 1948(昭和23)
 - 1949(昭和24)
 - 1950(昭和25)
 - 1951(昭和26)
 - 1952(昭和27)
 - 1953(昭和28)
 - 1954(昭和29)
 - 1955(昭和30)
 - 1956(昭和31)
 - 1957(昭和32)
 - 1958(昭和33)
 - 1959(昭和34)
 - 1960(昭和35)
 - 1961(昭和36)
 - 1962(昭和37)
 - 1963(昭和38)
 - 1964(昭和39)
 - 1965(昭和40)
 - 1966(昭和41)
 - 1967(昭和42)
 - 1968(昭和43)
 - 1969(昭和44)
 - 1970(昭和45)
 - 1971(昭和46)
 - 1972(昭和47)
 - 1973(昭和48)
 - 1974(昭和49)
 - 1975(昭和50)
 - 1976(昭和51)
 - 1977(昭和52)
 - 1978(昭和53)
 - 1979(昭和54)
 - 1980(昭和55)
 - 1981(昭和56)
 - 1982(昭和57)
 - 1983(昭和58)
 - 1984(昭和59)
 - 1985(昭和60)
 - 1986(平成18)
 - 1987(平成19)
 - 1988(平成20)
 - 1989(平成21)
 - 1990(平成22)
 - 1991(平成23)
 - 1992(平成24)
 - 1993(平成25)
 - 1994(平成26)
 - 1995(平成27)
 - 1996(平成28)
 - 1997(平成29)
 - 1998(平成30)
 - 1999(平成31)
 - 2000(平成12)
 - 2001(平成13)
 - 2002(平成14)
 - 2003(平成15)
 - 2004(平成16)
 - 2005(平成17)
 - 2006(平成18)
 - 2007(平成19)
 - 2008(平成20)
 - 2009(平成21)
 - 2010(平成22)
 - 2011(平成23)
 - 2012(平成24)
 - 2013(平成25)
 - 2014(平成26)
 - 2015(平成27)
 - 2016(平成28)
 - 2017(平成29)
 - 2018(平成30)
 - 2019(平成31)
 - 2020(令和2)
 - 2021(令和3)
 - 2022(令和4)
 - 2023(令和5)
 - 2024(令和6)
 - 2025(令和7)
 - 2026(令和8)
 - 2027(令和9)
 - 2028(令和10)
 - 2029(令和11)
 - 2030(令和12)

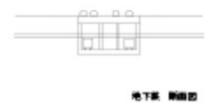


- 【コンテナの発展から発展の歴史まで】
- 516- 1 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 517- 2 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 518- 3 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 519- 4 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 520- 5 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 521- 6 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 522- 7 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 523- 8 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 524- 9 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 525- 10 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 526- 11 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 527- 12 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 528- 13 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 529- 14 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 530- 15 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 531- 16 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 532- 17 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 533- 18 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 534- 19 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 535- 20 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 536- 21 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 537- 22 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 538- 23 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 539- 24 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 540- 25 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 541- 26 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 542- 27 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 543- 28 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 544- 29 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 545- 30 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 546- 31 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 547- 32 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 548- 33 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 549- 34 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 550- 35 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 551- 36 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 552- 37 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 553- 38 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 554- 39 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 555- 40 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 556- 41 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 557- 42 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 558- 43 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 559- 44 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 560- 45 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 561- 46 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 562- 47 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 563- 48 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 564- 49 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 565- 50 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 566- 51 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 567- 52 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 568- 53 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 569- 54 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 570- 55 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 571- 56 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 572- 57 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 573- 58 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 574- 59 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 575- 60 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 576- 61 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 577- 62 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 578- 63 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 579- 64 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 580- 65 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 581- 66 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 582- 67 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 583- 68 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 584- 69 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 585- 70 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 586- 71 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 587- 72 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 588- 73 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 589- 74 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 590- 75 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 591- 76 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 592- 77 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 593- 78 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 594- 79 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 595- 80 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 596- 81 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 597- 82 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 598- 83 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 599- 84 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 600- 85 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 601- 86 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 602- 87 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 603- 88 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 604- 89 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 605- 90 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 606- 91 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 607- 92 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 608- 93 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 609- 94 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 610- 95 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 611- 96 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 612- 97 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 613- 98 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 614- 99 日本郵船株式會社の設立 (1879)
 - 615- 100 日本郵船株式會社の設立 (1879)



LRTとは、Lite Rail Transit のことであり、建設費が少なく海外での事例も多い交通機関のことである。他の交通機関に比べ、交通環境への負担が少ない乗り物である。公衆のイメージの強い四日市港にLRTを導入することで環境にやさしいまちへのイメージの改善も期待できる。デザイン性も高く、芸術として象徴的な存在になる。また、バリアフリーに配慮した設計なので高齢者や幼児にも優しい交通機関であり、幅広い世代の利用が望める。それにより、地域住民も四日市港への関わりも強くなり、四日市港の発展につながる。文化財である東区漁港の上も走り、都市景観に配慮した設計であり、地域性の高い交通機関となる。近鉄、京への乗り換えも可能で、より多くの利用客が見込める。

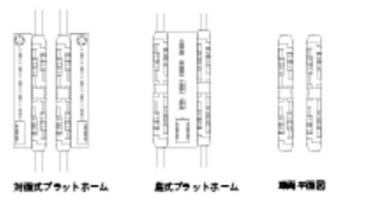
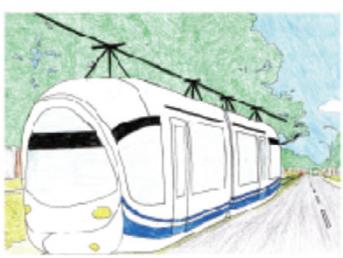
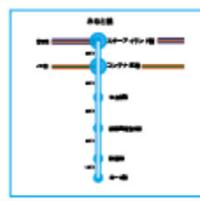
JR 四日市駅地下化



LRT



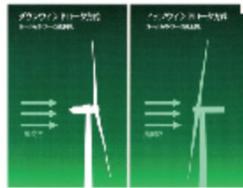
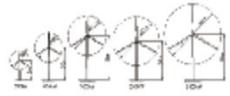
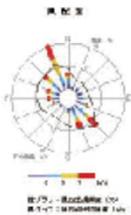
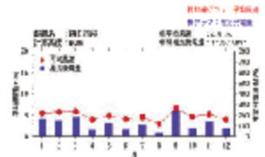
路線	区間	駅名
1号線	A-B	A
		B
		C
		D
		E
		F
		G
		H
		I
		J
2号線	K-L	K
		L
		M
		N
		O
		P
		Q
		R
		S
		T
3号線	U-V	U
		V
		W
		X
		Y
		Z
		AA
		AB
		AC
		AD
4号線	AE-AF	AE
		AF
		AG
		AH
		AI
		AJ
		AK
		AL
		AM
		AN
5号線	AO-AP	AO
		AP
		AQ
		AR
		AS
		AT
		AU
		AV
		AW
		AX



風力発電



エコという観点から地価相場にやさしい発電方法である風力発電を提案する。この提案によるメリットは、2010年の新庁舎の落成、エコの緑の四日市のイメージアップ、風車をエコメメント的なものにとらえた景観の向上などが期待される。風力発電を取り入れる際には風量、騒音、景観影響などの様々な視点が発生する。しかしそれらの問題はグラフにしたデータと図解の導入で解決できると思われる。



港間交流



四日市港の発展に不可欠なもの地港との交流がある。貿易をしていた時代につながっていた歩道を今日の建築に沿った形で再活用し、港間での交流を深め、四日市港の発展につなげる。これによって四日市の芸術、環境、地域を軸によって全国に広めることができるだろう。



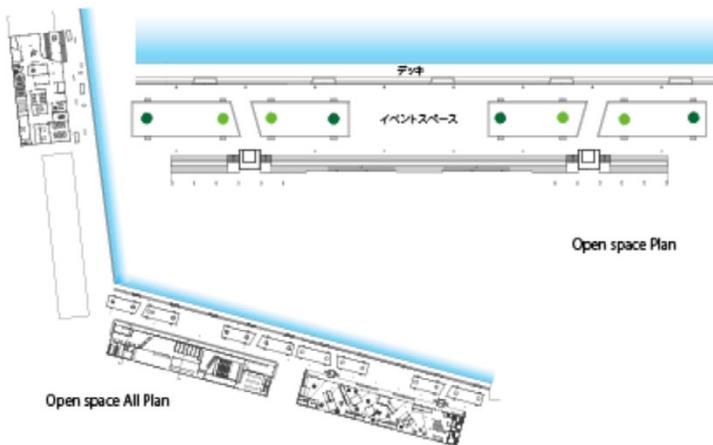
将来像



Suggestion [port Vision]

オープンスペース

オープンスペースでは環境という、海に開けている形を活かすために開放感を増やすような空間を提案した。土地の特性になるようなランドスケープを作り出すための広場や、豊かに集れた人々が集わることができる憩いのためのイベントスペースを提案した。

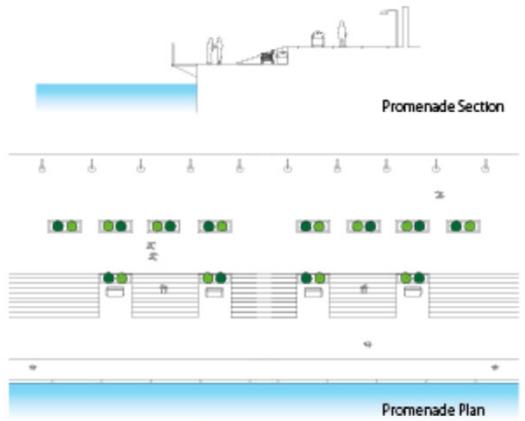


Open space Plan

Open space All Plan

プロムナード

四日市の観光資源に石油コンビナートの夜景があり、このプロムナードはその景観を一望できる。観光客はもちろん、地域の人も四日市の魅力を再確認してもらうことができるだろう。



Promenade Section

Promenade Plan

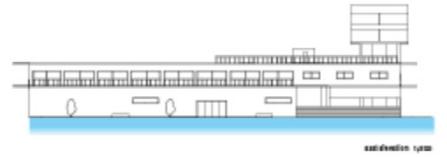
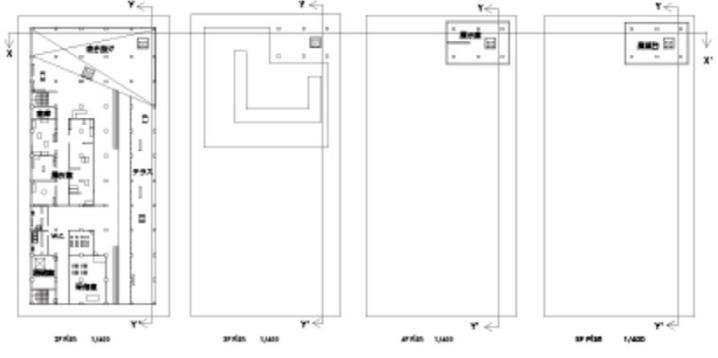


North Elevation

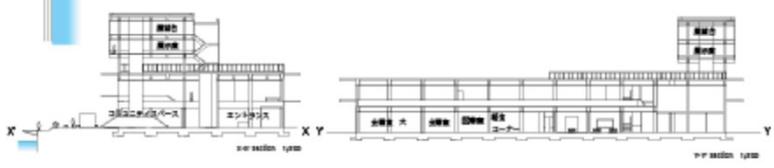
×Port
×People



この建物は人と人、人と空間をつなげることを目指し、さまざまな人や団体が利用できる施設である。1Fは主に地域交流、NPO団体の活動の場とする。ここで建築についての学習や活動を行うこととする。2Fは芸術スペースである。この空間は、この建物の中心となる空間である。ここは建築を学ぶ場である。この空間は、人と人をつなげることを目指す。



コミュニティスペースから階段を降り



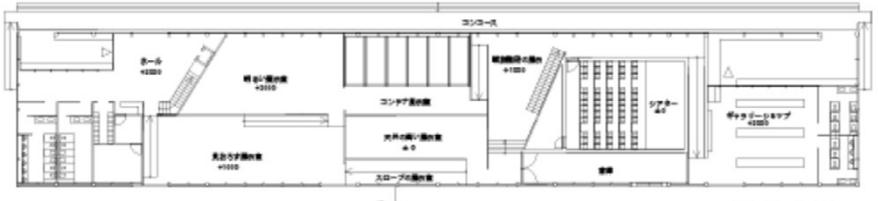
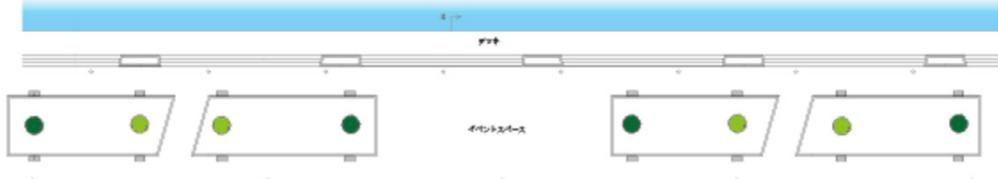
×Warehouse
×People



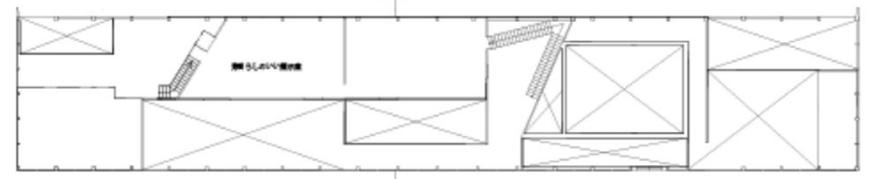
四日市港に建つ倉庫のコンバージョンである。四日市港は工業によって栄えており、石油コンビナートに隣接するという土地的特徴をもっている。今回はその倉庫を美術館にコンバージョンし、地元三重県のアーティストの活動の場にする。倉庫と港という印象ある空間を利用し、真なる性質を持った展示空間をつくり、アーティストの創作本能を刺激する。更に美術館の前にはイベントスペースがあり週末には茶室などで開く。かつて四日市港が賑わっていたという四日市港の姿を取り戻すことができることを願う。



エントランスからホールを降り



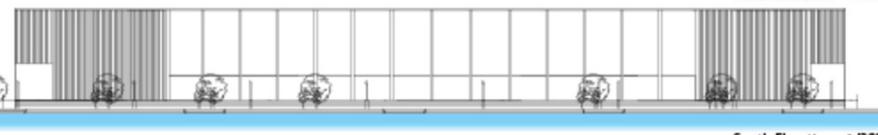
1F Plan 1/200



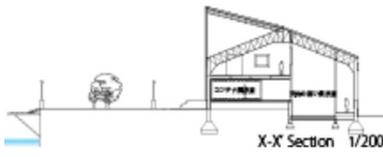
2F Plan 1/200



North Elevation 1/200



South Elevation 1/200



X-X Section 1/200

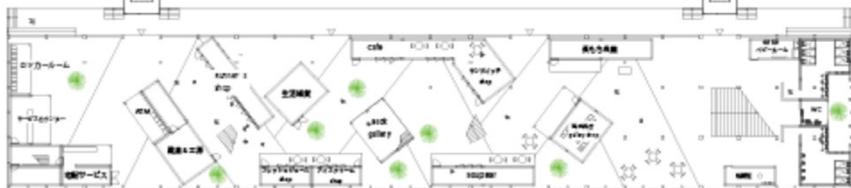
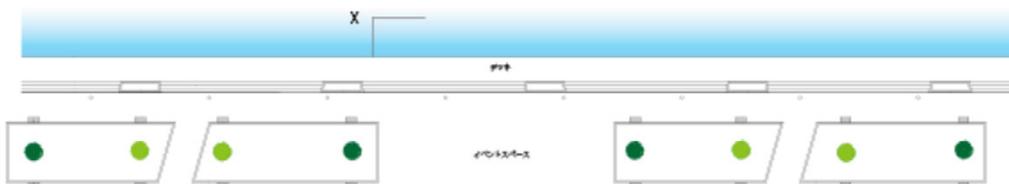
Region

× Resource

× People



倉庫をコンバージョンした商業施設。
 北側からアプローチし少し下って1階フロアー、
 大階段を上って裏側2階フロアーへ入ることができる。
 屋根も取り払い鉄骨骨組みだけを露し、内庫はコンテナで
 つくられた駅のようなになっている。
 裏側の2階フロアーからは開けた海を望むことができる。
 コンテナで透らしさを感じ、鉄骨で倉庫の印象を感じ、
 裏側2階フロアーで岡田市の海を感じてもらうことで
 訪れた人々にすばらしい岡田市を知ってもらいたい。



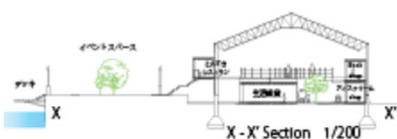
1F Plan 1/200



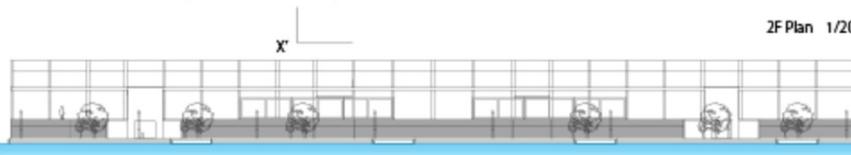
東側入口から内部を見る



2F Plan 1/200

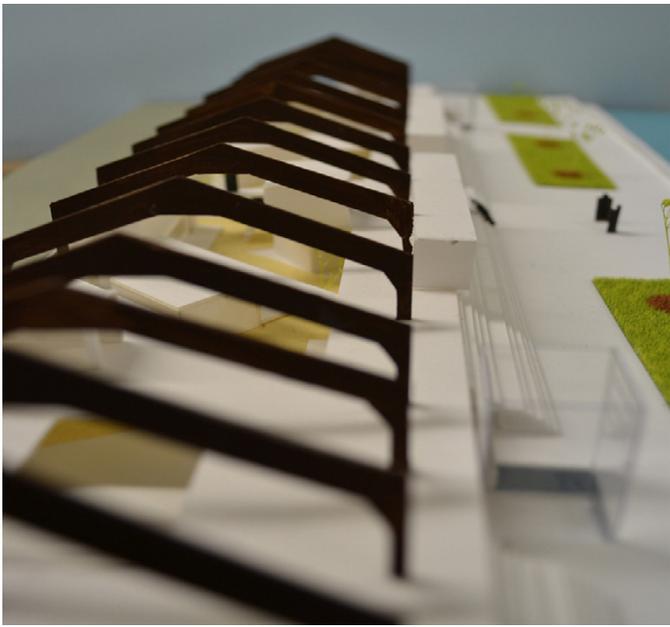


X-X' Section 1/200



North Elevation 1/200





三重大学工学部建築学科3年生による
「親しまれる四日市旧港への再編計画」
作品集

2012年12月7日発行

編集・製作・製本 三重大学大学院工学部建築学科
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL：059-231-9477（直通）
